報告事項Ⅱ

子どもの権利に関する条例に基づく
2023(令和5)年度事業等の実施状況

(各実施機関報告一覧)

2024(令和6)年10月18日

泉南市子どもの権利条例委員会事務局

目次

	事業タイトル	担当課	ページ
第4条	みんな仲よし会議	生涯学習課（青少年センター）	p. 23
	図書館ジュニア司書クラブ	文化振興課（図書館）	p. 25
	泉南まるごとフェスティバルの出店	子ども政策課	p. 26
第5条	せんなん子ども会議	人権国際教育課	p. 28
第6条	こころホットライン	生涯学習課（青少年センター）	p. 31
	教育相談	指導課	p. 32
	子どもの声～市長・教育長への手紙～	教育総務課	p. 34
	子ども相談（地域子育て支援センター）	家庭支援課	p. 35
	子ども相談（家庭児童相談室）	家庭支援課	p. 38
	KIDS相談	人権推進課	p. 39
	子どもの権利条例 相談・救済 3部3課会議	人権推進課	p. 40
第7条	子ども元気広場事業	生涯学習課（青少年センター）	p. 42
	夏休みの子どもの居場所づくり事業	生涯学習課（青少年センター）	p. 44
	泉南市教育支援センターつばさ	指導課	p. 45
	泉南市立図書館 子どもの居場所づくり	文化振興課（図書館）	p. 46
第8条①	初任者・10年経験者人権研修	人権国際教育課	p. 48
	泉南市人権研究協議会・専門部活動	人権国際教育課	p. 49
	泉南市新規採用職員研修	人権国際教育課	p. 51
	泉南市人権教育指導者育成講座・管理職人権研修 「子ども会議10周年記念シンポジウム」	人権国際教育課	p. 52
	学校園に対する人権国際教育課ヒアリング	人権国際教育課	p. 54
	ゆうてみいサポーターでつながる子どもの権利が大切にされる 地域共生社会実現事業	人権推進課	p. 55
	泉南市留守家庭児童会職員研修	生涯学習課	p. 56
	生活の中の子どもの権利～子どもに寄り添い、子どもの話を聴く～	生活福祉課	p. 57
	子どもの権利を学び、子どもの声を聴く	生活福祉課	p. 58

	事業タイトル	担当課	ページ
第8条②	子どもの権利を学ぶ	保育子ども課	p. 60
	ゆうてみいサポーターでつながる子どもの権利が大切にされる地域共生社会実現事業 ～世界の子どもの権利かるたで遊ぼう～	人権推進課	p. 61
第8条③	『赤ちゃん教室』で保護者研修	家庭支援課	p. 63
	『子育て講座』で保護者研修	家庭支援課	p. 65
	ファミリー・サポート・センター協力・両方会員研修会	家庭支援課	p. 66
	保護者学習会（認定こども園事業）	保育子ども課	p. 67
	保護者学習会（子ども総合支援センター事業）	保育子ども課	p. 68
	公立幼稚園での保護者研修会	人権国際教育課・指導課	p. 69
	ゆうてみいサポーターでつながる子どもの権利が大切にされる地域共生社会実現事業	人権推進課	p. 70
第9条	教育相談	指導課	p. 72
	りんごの広場（つどいの広場事業）	保育子ども課（子ども総合支援センター）	p. 74
第10条	泉南市内保育施設合同研修会	保育子ども課	p. 76
第12条	安全パトロール事業と安全講習会	指導課	p. 79
	通学路危険箇所調査	指導課	p. 80
第13条	伝市メール講座	危機管理課	p. 82
第14条	泉南市子どもの権利の日の取組	子ども政策課・人権国際教育課・人権推進課	p. 84
	学校園における『子どもの権利の日』の取組についてアンケート	人権国際教育課	p. 85
第15条	泉南市webサイトによる広報	人権国際教育課	p. 87
	広報せんなん『シリーズ：子どもの権利』	子ども政策課	p. 88
	「子どもの権利の日」ちらし、「子ども会議の委員募集」ちらし、「子どもの権利に関する条例パンフレット」による広報	人権国際教育課・子ども政策課・人権推進課	p. 89
	「人権作品展」「市民の集い」「子どもの権利の日」における子どもの権利パネルの設置	人権国際教育課・子ども政策課・人権推進課	p. 90
第16条	子どもの権利条例委員会	子ども政策課	p. 92
	子どもの権利条例市民モニター会議	人権推進課	p. 93
	子どもの権利に関する施策推進本部	子ども政策課	p. 94

第4条 子どもの意見表明と参加

第4条では、「すべて子どもは、家庭や子ども施設等さまざまな場面において、自分と自分に関係することや自分が必要としていることについて、自己の権利として自分の意見を表明したり表現したりして、その社会の一員として積極的に参加することができます。」と定め、子どもが意見表明と参加の権利をもつ主体であることを明らかにしています。意見とは、その子なりの思いや願い、気持ちなども指します。「自己の権利として」とは、子ども自身が子どもの権利条約に定められた権利を知り、その権利行使の主体と自覚することを意味します。聴く側も、意見表明を子どもの権利として積極的に受け入れ、子どもの最善の利益をめざして聴くという意味をもちます。

これに基づき、市では、様々な場面で子どもの意見表明と参加の権利が子ども自身によって具体的に不断に実現されるよう、施策を実施することを市の役割としています。子どもの意見表明や参加の観点から、泉南市の子ども施策を振り返り、可能なところから子ども参加ができる仕組みづくりを進めます。

視点

☐子どもは、子どもの権利条約を知り、自分が権利の主体であることを意識していますか☐子どもの意見とは、思いや願い、気持ちなども指すことを意識していますか☐市は様々な場合で子どもの意見表明と参加の権利が子ども自身によって具体的に実現されるように施策を見直していますか☐目的に応じて当事者である子どもの様子が伝わる記載内容になっていますか

1	タイトル	みんな仲よし会議
2	事業名	青少年センター運営事業
3	担当課	教育部 生涯学習課(青少年センター)
4	目的	子どもが自身の意見を出せるきっかけや仕組みを整えることで、子ども自身の自主性を高め、その中で自分の意見を表明したり表現したりし、その一員として参加し子どもの最善の利益を実現していく。
5	事業概要	子どもが青少年センターの運営の一端を担い、青少年センター運営事業の企画や提案を行う。参加する子どもの募集については、『みんな仲よし（青少年センター）通信』で募集を行う。会議を行う日に来館している子どもが当日参加することもある
6	対象者	泉南市在住の子ども
7	R5 実施内容	下記内容について会議を2回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年C（みんな仲よし）で遊んでいて思っていることはないですか？ ・青少年C（みんな仲よし）でやってみたいことはないですか？ ・青少年C（みんな仲よし）にあったらいいと思うものはないですか？
8	参加者数	会議参加者 24名 こどもスタッフ企画参加者 197名
9	実施場所	青少年センター
10	実施日	6月10日、7月22日
11	所要額	0円
12	成果	「知らない子でも気軽に話せる！」「先生って呼んだらすぐきてくれる」等、『みんな仲よしで遊んでいて思っていること』では、青少年センターが安全に安心して過ごせる居場所として、子どもたちにとって欠かせないものになってきていると感じることができた。反面、「もっと時間を増やしてほしい」「日曜日もいきたい」「クラブ終わった後、時間なくて行けない！」等の意見も多くだされた。今後もたくさんの意見を出してもらい、出来る限り子どもの声を形にしていけるよう、努めていきたい。 『みんな仲よしでやってみたいこと』については、子どものつぶやきから始まった【こどもスタッフ】が実施したイベントが楽しかった企画として残っているようで、『ハロウィンパーティー』や『夏祭り』等が意見として再度出された。みんな仲よし会議で出された意見を【こどもスタッフ】が企画・準備・運営し、上に出された意見以外にも『プラバン大会』や『作りごま大会』『クリスマス会』等も実施した。その他、日常で出来そうな遊びについては、放課後の居場所の時間帯で、『ドッジボール』を声掛けしてみんなで作れるように実施したり、なわとび台を作成し自由に縄跳びの練習が出来るようにしたりした。また『みんな仲よしにあったらいいと思うもの』につい

		<p>ては、おもちゃ買い出しツアーを実施し、子どもたちがみんな仲よしでみんなので使えるものを選択してもらい購入した。ソファなどの希望があったため、いくつかのソファを提示し、子どもたちの投票によって購入物品を決定する等実施した。また市民交流センターで実施している児童館的事業について、実施場所が移転することとなり、それに併せて自分たちが過ごす居場所を自分たちで創って行くというコンセプトのもと、リニューアル実行委員会を立ち上げ、移転後の居場所をどんな風にするのかという話し合いを進めた。壁紙や天井のクロス、そこに置かれるおもちゃの選定などを行い、移転初日には実行委員会のメンバーによるリニューアルイベントも実施した。移転後は、自分たちで創った居場所という愛着もあり、前年度以上に来館者が増加している。</p>
13	課題	<p>①みんな仲よし会議については、様々な理由で参加したくても参加できない子どもたちもいる。</p> <p>②こどもスタッフイベントについては、みんな仲よし公式 LINE や館内や学校でのポスター掲示で事前告知を行ったが、「やりたい」を形にしていくため、告知期間を十分にとることができない。ただ、現状それでも多くの参加者がいるため、子どもたち自身が考えた魅力あるイベントへの参加希望者と施設のキャパシティの問題について検討していく必要がある。</p>
14	R6 年度の取り組み	<p>①今後オンライン等で参加する形を検討し、幅広い声をとらえることを視野に入れて開催していきたい。</p> <p>②みんな仲よし公式 LINE での周知の他、GIGA スクールで導入されたタブレットでの周知についても検討していきたい。</p>

1	タイトル	図書館ジュニア司書クラブ
2	事業名	図書館運営事業
3	担当課	教育部 文化振興課 図書館
4	目的	子どもたちの意見を取り入れ、図書館をより利用しやすい場所にする。本を通じて仲間づくりをすること。
5	事業概要	図書館でやりたいことの見解を出し合い、協力して取り組む。また、本の修理や装備、書架整理等、図書館の仕事を体験する。
6	対象者	市内在住の小学4年生から中学生まで
7	R5 実施内容	子どもたちの考えたイベントの企画、おすすめ本の特集コーナーの設置、壁面飾りやおはなし会の看板作成等と、司書の仕事体験。
8	参加者数	R5 年度登録者数 16名、延べ活動人数 124名
9	実施場所	泉南市立図書館
10	実施日	原則、毎月第2土曜日（午前の部、午後の部） 活動日数 年間12日（24回）
11	所要額	図書館運営事業に含まれる
12	成果	<p>自分たちでやりたいことを出し合い、下記の取り組み等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館夏祭りの企画、運営 ・入口の壁面飾り（1月 龍年）の作成 ・じゅうたんコーナーの窓に、春の装飾 ・おすすめ本のコーナー作り ・チョークアートによるおはなし会の看板作成 ・ゲーム「せんくまをさがせ」 <p>子どもたちの意見を取り入れることで、事業の活性化が図られた。 協力してやり遂げることで、学校や学年を超えた仲間づくりができた。 1年を通じて、司書の仕事をいろいろ体験することで、図書館や本に関する知識を知ってもらうことができた。 図書館の一部定例行事にも、スタッフとして協力してもらったときに、行事に参加した低学年の子どもたちから、「4年生になったらジュニア司書になりたい」という声が多数でいた。</p>
13	課題	ジュニア司書クラブの説明会を毎年5月に実施しているが、希望していたがその日に参加できない子どもがいた。また最初から1年間の活動を目的としているため、気軽に参加しにくい感じだった。
14	R6 年度の取り組み	ジュニア司書の前段階として、子ども1日図書館員の体験日を複数設定し、希望する子どもたちが参加しやすい取り組みを行う。

1	タイトル	泉南まるごとフェスティバルの出店
2	事業名	子ども政策事業
3	担当課	健康子ども部子ども政策課
4	目的	子どもの社会参加や意見表明の場を創出すること
5	事業概要	子どもの権利の日を周知するための企画・運営
6	対象者	市民等
7	R5 実施内容	泉南まるごとフェスティバルでのブース運営
8	参加者数	7人（市内・市外在中の社会人・大学生など企画・運営に携わった人数）
9	実施場所	泉南市総合福祉センターあいぴあ泉南・泉南市役所
10	実施日	6月13日、9月9日、9月30日、10月21日、10月28日、11月4日、11月19日（開催日）
11	所要額	0円
12	成果	<p>今までは、市内学校園の配布であったが、市内・市外問わず子どもから大人まで広く知ってもらう方法を泉南市内、市外に在中する社会人や大学生が中心となって検討を行い、泉南まるごとフェスティバルに参加し、ブース運営を行うことを決定した。</p> <p>集客方法については、スーパーボールすくいや将来の夢を書いてもらうなど、子ども達が立ち寄りやすいブースを検討し、実施した。また同じブースでは子どもの権利カルタを実施し、子どもの権利について遊びながら学んでもらう機会を創出し、あわせて子どもの権利の日チラシを200枚配布した。</p>
13	課題	今回の参加者募集方法は、校園長会や市内各施設にチラシを配布したが、募集期日までの期間が少なく、参加希望者が少なかった。子どもの社会参加や意見表明の場を創出する際に、参加が増えるよう子どもの参加を募集する方法について検討する必要がある。
14	R6 年度の取り組み	子どもの社会参加や意見表明の場を創出する多様な方法を子どもの声を聴きながら検討するとともに、募集方法についても SNS の活用を検討する。

第5条 せんなん子ども会議

第5条では、第4条の意見表明と参加の権利に基づき、市が事業主体となって「せんなん子ども会議」（以下「子ども会議」）を設置することを定めています。市が事業主体となる意義は、子ども達の議論や意見表明を泉南市の施策に反映させる、継続的な「まちの仕組み」として子ども会議を育てていくところにあるからです。子ども会議の継続的な実施は、「子どものための社会教育」「子どもが取り組む生涯学習」「子どもにかかわる地域福祉」といった積極的な意義を生み出します。また、子ども会議の運営の詳細は、子どもたち自身の自律的な意見表明・参加によるルールづくりを大切にします。そのためには、子どもの権利と支援について必要な知識やスキル、経験を有するファシリテーターが不可欠であり、「待つこと」「聴くこと」をベースに子ども参加とエンパメントを支援します。市は、子ども会議が表明した意見を尊重するよう努めます。

視点

- 子どもたちが参加しやすい仕組みになっていますか
- 子ども会議は「まちの仕組み」として、市民や子どもに定着していますか
- 子どもたちの自律的な意見表明や参加のルールづくりを行っていますか
- ファシリテーターの役割を担うおとなは、研修等で子どもの権利について理解する努力をしていますか
- 市は、子どもたちの意見表明を尊重しましたか
- 目的に応じて、当事者である子どもの様子が伝わる記載内容になっていますか

1	タイトル	せんなん子ども会議
2	事業名	子どもの権利に関する条例推進事業
3	担当課	人権国際教育課
4	目的	子どもたちの議論や意見表明を、継続的な「まちの仕組み」として、泉南市の施策に反映させる。
5	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小学4年～高校生の希望者（メンバー）が、子ども参加のまちづくりについて様々な方法で取り組む。 ・子どもの権利学習、広報活動、泉南のまちや地域、学校についての話し合いなどを通して、泉南市が「子どもにやさしいまち」となるための活動を行う。 ・子どもの意見表明として、1年間の活動内容を毎年3月に市長に報告する。 ・子ども会議の運営だけでなく、参加している子どもたちの話を傾聴・共感を大切にしながら聞くことを意識して子どもたちに接する。
6	対象者	市内の小学4年～高校生の希望者
7	R5 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は「泉南市のまちをきれいにしたい。」「子どもの権利や子ども会議を沢山の人に知ってもらいたい。」という意見をもとに子ども会議で検討を重ね、『クリーンビーチ・プロジェクト』というイベントを実施した。イベントでは樽井サザンビーチの清掃活動を行い、また綺麗になったビーチでビーチフラッグや宝探しをして交流した。また、3月9日には泉南中学校の防災用かまどを利用して、味噌汁の炊き出し体験を行った。 ・市長報告ではイベントの活動報告とともに、「泉南市にやってもらいたいこと（政策提言）」として、子どもたちが考えた『市が作ったエコバッグ』『泉南市ゴミの日をつくる』『泉南市民専用アプリでアナログ・デジタル共通フリマ』の3点のアイデアを市長に伝えた。
8	参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・7小学校、2中学校、26名の申し込みがあった。 ・全10回の子ども会議…延べ157人参加 ・2名の高校生が参加 ・8人のおとなサポーターが延べ51人参加 (11月25日【清掃活動】25名参加) ・市長報告…15人参加
9	実施場所	<p>青少年センター、泉南中学校（美術室）</p> <p>11月25日…樽井サザンビーチ</p>
10	実施日	<p>【月1回の土曜日の午前中】</p> <p>5月27日,6月24日,7月22日,8月19日,9月9日,9月30日, 11月25日 (清掃活動),12月16日,1月20日,2月10日,3月9日(市長報告)</p>

11	所要額	246,000 円
12	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちから出た意見をもとに、子どもたち同士の話し合いを通じた活動を実現できたことで、「話し合いが楽しい」「自分の意見をたくさん言えた」という感想を毎回聞くことができた。 ・清掃活動のイベントには子ども会議に登録していない子どもも参加してもらうことができ、子どもの権利・子ども会議の啓発活動としても成果があった。 ・「私たちにとっての子ども会議」をテーマに話し合いを行うと、「楽しくて、自分の言いたいことが言える場所」「新しい友だちができる場所」「楽しい大人がいてくれる場所」「泉南市のみんなのために活動する場所」「子ども全員が楽しんで活躍できる場所」という意見が子どもたちから出された。子どもたちの議論や意見表明の場としての子ども会議の意義が、子どもたちの中にも浸透してきた表れであると考えられる。 ・傾聴、共感を大切にしながら子どもたちと話をすることで、学校や家庭で困っていることや本音の思いを話してくれることもあった。
13	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生に関しては保護者の送迎が必要であるため、特に泉南中学校から遠い地域に在住している児童の参加に課題がある。 ・中学生のクラブ活動の時間帯に重なるため、中学生の参加に課題がある。
14	R6 年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も権利の主体である泉南市の子どもたちが、意見表明できるしくみとして子ども会議を継続して実施する。 ・毎回参加している子どもたちからの意見だけでなく、広く市内の子どもたちから意見を聞くことかできるようなアンケート等の機会を設ける。

第6条 子どもの相談と救済

第6条では、「子どもは、いじめや虐待、体罰その他の人権侵害を受けたとき、または受けそうな状況におかれたとき、自己の権利として、子ども自身が必要としている相談と救済を受けることができます。」と定めています。ここでいう「相談と救済」は一体的に連動する子どもへの支援として捉えます。「救済」とは、おとなから一方的に与えられるものではなく、子どもが人として尊重される他者との相互・共同の関係（すなわち「相談」）の中で、自らの主体を回復していくことで成り立ちます。また、子どもは、自分の受けている不当性の原因を自分だと考えることもあるので、人権侵害について学ぶことも大切です。

また、市は子どもが必要とする「相談と救済」の仕組みを整えることを責務としています。安心してアクセスできる、子どもにその窓口が周知されている、相談したときに、子どもの思いや意見が尊重される、年齢に応じてきめ細やかな支援が受けられる、秘密が守られ、子どもの意見表明と参加を尊重して、子どもの最善の利益を具体的に実現できるように努めているなどを基本原則として、市の機関や子ども施設は対応する必要があります。どういう状態になれば、子どもは安心できるのかを子どもと一緒に考えていく、実践的な「相談と救済」です。

視点

- 相談と救済は一体的に連動する子ども支援となっていますか
- 子どもと解決のイメージを共有できていますか
- 相談・救済の現状がわかる記載になっていますか
- 相談・救済の基本原則を意識していますか
 - 安心してアクセスできるか 子どもに窓口が周知されているか
 - 年齢に応じてきめ細やかな支援が受けられるか 秘密が守られているか
 - 子どもの意見表明と参加を尊重して、(子どもの話を聴いて) 最善の利益の実現に努めているかに、施策に生かしていますか

事業名	青少年センター運営事業 こころホットライン
担当課	教育部 生涯学習課（青少年センター）
所要額	0 円
事業概要	子どもたちが抱えている家庭や学校でのトラブルや悩み・不安を職員が子どもたちと過ごす中で話を聞き、共感的に受け止める。 子育てに悩む保護者の相談を、電話、メール、対面等により受ける。
実施場所	青少年センター、市民交流センター（児童館）、ちびっ子遊び広場（出先、小学校等）その他
受付時間	青少年センターの開業日時（日曜日、祝祭日、年末年始を除く）
相談方法	電話、メール、対面等
周知方法	みんな仲よし通信、広報せんなん、市 WEB サイト
相談を聴く人	青少年センター職員
特徴	子どもとともに過ごす中で、職員が共感的に受けとめる 子どもの理解を得たうえで、学校や関係機関につなぐ
R5 年実施内容	日常的な居場所や事業を中心に、子どもや利用者との関わりを深め、様々な相談を受け止める。
相談件数	13 件（子育てに関すること 6 件、学校生活について 4 件、その他 3 件）
主な相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学校生活についての不安や友達関係について ・子ども自身の学校生活、友達関係について
自己評価	<p>青少年センターで作成している「子どもの関わり方基本スタンス」や「相談事業こころホットラインについて」に則り、子どもとは傾聴・共感の姿勢で関わり、子どもたちにとって話しやすい関係作り、環境づくりを行えた。そのことにより相談件数には計上していないが、日常的な関係の中で職員に「今日はこんなことあってな」「〇〇が××してくるねん」とたくさん話をしてくれている。子どもたちとの信頼関係を構築することで、『気軽に話ができる人』『話をちゃんと向き合って聴いてくれる人』と感じてくれている子どもたちが大勢いる。また保護者にも青少年センターでの様子をお伝えすることで、「家ではこんな感じですよ」等、家庭での様子を話してくれ、気になる内容については、学校とも連携をとり、一人ひとりの子どもと向き合うことができた。課題としては、日常的な居場所での相談となることがほとんどのため、集計されていない話が多数ある。相談の出し方が一人ひとり、その子どものよって違うため、つぶやきを相談ととらえるのは受け止める側の感覚によるところがあり、子どもたちに関わる職員一人ひとりの意識を同じ方向へ持って行く必要がある。</p> <p>今年度の取り組みとして、相談内容にとどまらず、気になる子や気になる様子などを職員間で共有するためのシート『申し送り事項』を作成し、共有している。</p>

事業名	教育支援センター事業 教育相談
担当課	教育部 指導課
所要額	0 円
事業概要	学校園生活や家庭生活での子どもに関する相談事業。 学校の指導に対する児童生徒の不安、友達関係、虐待等に関する相談事業
実施場所	教育委員会 指導課（相談ブース）
受付時間	月～金曜日 9：00～17：30（土、日、祝日、年末年始を除く）
相談方法	電話・来庁（対面）・学校訪問
周知方法	広報せんなん 市 WEB サイト
相談を聴く人	教育支援センターつばさ指導員等（任期付職員 2 名・会計年度職員 1 名）、SSW（会計年度職員・社会福祉士等 5 名）、指導主事等が対応。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会への相談はほとんどが保護者または子どもの話を直接ききとった SSW や、学校教職員であり、相談のスタートの多くは学校で行われていることが多い。 ・相談内容については、相談者の同意のもと、当該学校園と連携し問題の解決にあたる。 ・多職種連携会議（スクールロイヤー・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・コミュニティーソーシャルワーカー・家庭児童相談室・教育支援センターつばさ・子ども総合支援センター各小中学校担当者）等関係機関と連携して対応。
R5 年実施内容	<p>○基本的には教育委員会指導主事が相談対応するが、必要に応じて教育支援センター指導員、補助指導員、SSW、相談対応をしている。</p> <p>○最近では保護者の思いと子どもの悩みに齟齬がある場合が多く、その時は子どもに寄り添った指導助言することを心がけている。</p> <p>○巡回訪問として、家庭児童相談室、教育支援センター、子ども総合支援センター等と連携し、年間 3 回市内 14 小中学校を訪問している。学校と一緒に子どもの実態把握を行い、不登校や問題行動の未然防止に努めているところである。</p>
相談件数	全件数を合わせるとのべ 1,841 件 継続して支援を行っているケースも多い。
主な相談内容	<p>@家庭環境に関すること（虐待・貧困を除く）：404 件</p> <p>@不登校に関すること：345 件</p> <p>@発達障がい等に関すること：271 件</p> <p>@心身の健康・保健に関すること：148 件</p> <p>@友人・教職員等との関係に関すること：229 件</p> <p>@いじめ、暴力行為、非行等の問題行動に関すること：146 件</p> <p>@児童虐待に関すること：136 件</p> <p>@貧困に関すること：82 件</p>

	<p>@ヤングケアラーに関すること：68件</p> <p>@その他：12件</p>
自己評価	<p>○学校現場での、SC（スクールカウンセラー）SSW（スクールソーシャルワーカー）による幅広いカウンセリング（相談）することで、児童生徒不安軽減、及び解消につながっている。</p> <p>○学校が日々の生活や教育相談の中で、子どもの声を多く受け止めることで不登校等の未然防止・早期解決につなげ、さらに重層的な支援として専門家のSC・SSW・家庭児童相談室や子ども総合支援センター等と連携し、ケース会議や支援につなげている。</p> <p>○課題としては、相談のニーズが年々増加するとともに、相談内容が複雑化しており、現在の相談体制だけでは対応が難しいケースも見られる。相談件数が年々増加するとともに、相談内容が複雑化しており、現在の相談体制だけでは対応が難しいケースも見られるため、体制強化として、正規職員の心理職の採用を今後進めていく。</p> <p>○今年度の取り組みとして、子どもたちの相談が多種多様になっており、よりアクセスしやすく、相談しやすい仕組みが求められているため、今後タブレット等を活用した相談方法を検討していく。</p>

事業名	教育委員会運営事業 子どもの声～市長・教育長への手紙～
担当課	教育部 教育総務課
所要額	7, 1 2 8 円（用紙代+郵送代）
事業概要	「学校に限らず、子どもが誰にも相談できずに悩んでいることを救いたい」という趣旨で行っている市立中学生を対象としたレター形式の相談事業
実施場所	泉南市立中学校
受付時間	手紙方式で随時受付
相談方法	市長・教育長への手紙
周知方法	7月に市立中学生1～3年生に配布
相談を聴く人	市長・教育長（子どもが提出した宛先による）
特徴	子どもからの手紙は、直接市長又は教育長に届き、解決に向けて相談して取り組む。また、相談内容の秘密を守ることを約束している。
R5 実施内容	○中学生が抱える悩みや思いを市長又は教育長に直接届ける制度として、夏休み前の7月に市立中学校生徒全員へ専用用紙を配布し、相談を受付けている。 ○切手を貼らなくても手紙が出せるように、料金受取人払専用の返信用封筒を作成している。
相談件数	0件
主な相談内容	なし
自己評価	○令和5年度は相談がなかったが、市長や教育長に子どもの悩みや思いを届けることができる1つの方法として、また、相談できない悩みを抱え困っている子どもの声が埋もれてしまわないよう今後も取組を継続していく

事業名	地域子育て支援拠点事業 子ども相談(地域子育て支援センター)
担当課	健康子ども部 家庭支援課
所要額	0 円
事業概要	子どもの保護者からの様々な相談に応じることで、子どもの健やかな成長・発達の支援、保護者の育児不安の軽減、子どもや家庭への効果的な援助を行うことを目的とする相談事業
実施場所	地域子育て支援センター『ひだまり』
受付時間	ひだまりスタッフによる相談→月～金曜日 (土・日・祝日・年末年始を除く) 専門職による相談→保健師…2 か月に 1 回 栄養士…2 か月に 1 回 家庭児童相談員(公認心理師、社会福祉士)→… 1 か月に 1 回 ・詳しい日程は 2 カ月に一回発行のひだまり通信にてお知らせしている。
相談方法	来園(電話相談も可能)
周知方法	ひだまり通信 広報せんなん 市 WEB サイト
相談を聴く人	ひだまり職員(保育士)：正職 3 名、会計年度任用職員 5 名 専門職相談 保健師 1 名 正職、任期付職員もしくは会計年度任用職員 (所属：保健センター)、 管理栄養士 1 名 正職 (所属：保育子ども課)、家庭児童相談員 1 名 公認心理師 又は社会福祉士 正職又は任期付職員 (所属：家庭支援課)
特徴	ひだまりを利用している方からの子育てに関する相談が多く、保護者の育児軽減や不安の解消につながっている。 悩みに応じて、専門職や他機関への紹介や、他の地域子育て支援拠点や家庭支援推進保育所等と連携しての支援ができる。 子育て講座等では、乳幼児から子どもの権利について、意識づけすることができる。
R5 年実施内容	地域子育て支援センターで行う事業を利用する 0 歳から就学前までの子どもの保護者からの子育てに関わる様々な質問(発達、食事、進路、人間関係など)を受け、スタッフが一緒に考え、必要に応じて専門機関へ繋いでいる。 定期的に専門職(保健師、管理栄養士、公認心理師、社会福祉士)による相談日を設けている。子どもと遊びに来た保護者に、受付で相談したいことは有るか、有る場合は簡単な内容を聞き取っておき、専門職が遊んでいる親子を順に回って対応している。 子どもが少し大きくなり園や学校に通うようになって時間ができた保護者の中には、子育て応援団(ボランティア)となり、先輩保護者として子育てママ達に関わり育児不安等に寄り添う支援をしてくれている人もいる。
相談件数	328 件 ※延べ相談件数

主な相談内容	言葉	14
	親子の関わり、自己主張	34
	友達、きょうだい関係、人見知り	19
	排泄、トイレトレーニング	13
	健康、生活習慣、しつけ、夜泣き、睡眠	34
	利用者支援	5
	一時保育など	0
	歯について	8
	発育・発達	50
	食事・アレルギー	45
	母乳、ミルク、離乳食	40
	進路(保育所幼稚園)	46
	母親の人間関係	13
	母親の健康	21
	母親の就職	4
	子どもの遊び場	3
	コロナに関すること	0
	その他	56
<p>※その他に含まれていることは、子どもを病院に連れていくタイミング、保護者の睡眠の事、母のイライラについてなど</p> <p>※1件の相談に複数の内容が含まれていることがあるので、合計数が328件を超えている。</p>		
自己評価	<p>子どもと一緒に遊びに来る中で、スタッフとの世間話から相談に繋がることが多い。何気ない会話の中から保護者の困り感に気付けるよう気を配りながら対応している。相談内容は日常の些細な事とも思えるケースも多いが、気になった事を気軽に相談できるので、大きな悩みになる前に解消できる事が多い。また定期的に専門職の相談日があることで、保育士であるスタッフとは違う視点で話を聴くことができ、あえて専門機関に電話して相談するほどではないが専門職に聞く機会があれば聞きたいことが解消される。相談者は保護者なので、保護者の思いに寄り添いつつも、子どもの成長、発達を一緒に見ながら「今子どもはこんな状態かな」「きっとこんな風に思っているよ」などと、言葉を伝えることができない子どもの思いを代弁することも大切にしている。広報紙やチラシ、ホームページなどで周知を図っているが、その他に保健センター事業(4か月児健診、1歳6か月児健診、ほっとママサロン)に参加し利用者支援を行うことから、ひだまりの事業に繋がるケースが増えている。</p> <p>年度末の利用者アンケートの自由記入欄には、「子どもの遊び場があつてうれしい。」「遊具がたくさんあつて楽しく遊べる。」等という子ども目線の声</p>	

ある一方、「大人と話ができる場所がありとても助かった。」「孤独を感じる子育ての中で気晴らしができ、また子どもと笑顔で向き合えた。」「いつも話を聴いてもらえて気持ちが落ち着く」等、日々頑張って子育てをしている保護者が、職員やママ友との繋がりができたことで、自分だけがしんどいのではないことを共有でき、改めて我が子の可愛さ大切さに気付くという姿が見られた。また、「予約制でなく自由に行ける場所になってほしい。」「週2回の制限をなくしてほしい。」「予約なしになったらもっと気が楽だが人数が増えると心配もある。」と、コロナ禍以来の感染対策として予約制、人数制限をしてきたことに対しての声があった。

令和6年度の変更点として、『ひだまりルーム』に関しては予約せずに自由に遊びに来ることができるようにする。回数の制限も無くするので、利用者が行きたいと思うタイミングで遊びに来ることができ、相談事がある場合も更にタイムリーに話を聴くことができると思われる。「土日や水曜日も開いていたらもっと嬉しい」という声もあるが、年4回『土曜日・日曜日のひだまりルーム』を開催し、父親の育児参加を促す機会、平日に仕事をしている家庭もひだまりに遊びに来る機会を作っている。水曜日は、市内各所に出向いて遊びの場を提供する出前保育や、未就学の保護者向けの子育て講座等を行っている。また令和6年度は同じ建物内に乳幼児の遊びの広場（SENNAN LITTLE PARK りるぱ）が開設され水曜及び土日祝日もオープンする（定休日は火曜日）。両施設で連携をしながら子育て家庭の居場所となるようにしていきたい。

事業名	家庭児童相談室事業 子ども相談(家庭児童相談室)																		
担当課	健康子ども部 家庭支援課																		
所要額	0 円																		
事業概要	子どもとその保護者からの様々な相談に応じることで、子どもの健やかな成長・発達の支援、保護者の育児不安の軽減、子どもや家庭への効果的な援助を行うとともに、子ども家庭総合支援拠点として、専門的な相談に応じ、総合的かつ継続的に支援をすることを目的とする相談事業。																		
実施場所	家庭児童相談室																		
受付時間	月曜日から金曜日の午前9時から午後5時30分 (土、日、祝日、年末年始を除く)																		
相談方法	電話・来庁・ハガキ																		
周知方法	広報せんなん、市 WEB サイト、こども相談チラシ																		
相談を聴く人	正規職員4名(保健師、保育士、公認心理士、社会福祉士) 非正規職員3名(保育士、公認心理士)																		
特徴	子ども家庭総合支援拠点として多職種を配置することで、専門的な相談に応じ、総合的かつ継続的に支援をすることができる。																		
R5年実施内容	0歳から18歳までの子どもたちが心身ともに健やかに育つように、子どもと保護者等にかかわる様々な相談(子育て・しつけ・養育・発達・非行・不登校等に関する事)に応じながら、相談内容によっては一緒に考えるなど、養育環境全般において実情の把握と課題解決のための支援や、要保護児童対策地域協議会、子ども家庭センターなど関係機関との連携調整、及び支援が終了したと判断された子どものアフターケア、子どもが地域で孤立しないようにするための支援を行う。また、子ども自らが相談できるようフリーダイヤルの設置や無料はがき付のチラシを作成し、小中学校に配布した。																		
相談件数	相談件数 12,053 件 ※延べ件数																		
主な相談内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">相談受付件数</th> <th>385 件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">内</td> <td>養護相談</td> <td>312 件</td> </tr> <tr> <td>保健相談</td> <td>26 件</td> </tr> <tr> <td>障害相談</td> <td>0 件</td> </tr> <tr> <td>非行相談</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">訳</td> <td>育成相談</td> <td>28 件</td> </tr> <tr> <td>その他相談</td> <td>18 件</td> </tr> </tbody> </table>		相談受付件数		385 件	内	養護相談	312 件	保健相談	26 件	障害相談	0 件	非行相談	1 件	訳	育成相談	28 件	その他相談	18 件
相談受付件数		385 件																	
内	養護相談	312 件																	
	保健相談	26 件																	
	障害相談	0 件																	
	非行相談	1 件																	
訳	育成相談	28 件																	
	その他相談	18 件																	
自己評価	<p>○相談者は低年齢児では保護者が多く、中高生になると所属機関を通して、子ども自身からの相談も増えてくる傾向にあり、虐待に至る前の相談ケースもある。</p> <p>○子どもや保護者が少しでも安心できるように、定期的に話を聴きながら訪問するなど、いつでも相談にきてほしいという気持ちで継続的に対応していくことで、大きな事象に至らずに済んでいるケースや、改善されたケースもあった。</p> <p>○SSW(スクールソーシャルワーカー)等学校関係者と連携して対応する例も増えており、同伴で家庭訪問する等、子どもの生活場面に外向くすることで、より子どもに目を向け、子どもの小さな反応を見逃さないようにしている</p> <p>○子ども相談チラシは、長期休み前に市内小中学校全児童に配布し、子ども達の相談先の選択肢拡充となった。また、学校が目の届きにくい時期に配布することを、学校側から好評価をいただいている。</p>																		

事業名	人権相談事業 KIDS 相談
担当課	行政経営部 人権推進課（泉南市人権協会）
所要額	0 円
事業概要	総合相談事業を委託している泉南市人権協会において、設置している「キッズ相談窓口」において、子どもたちの心配や悩みを受ける相談事業
実施場所	市民交流センターの人権協会
受付時間	毎週水曜日 15：30～17：30
相談方法	対面
周知方法	4月の校園長会にて、チラシ配布を依頼し、全小学生に配布している
相談を聴く人	人権協会職員 2名
特徴	子どものみを対象とした相談事業
R5年実施内容	前年度と同様、市民交流センター内で窓口を開催し、子どもたちが悩みを相談できる場所の提供を行った
相談件数	0 件
主な相談内容	なし
自己評価	令和4年度からは土曜日開催日を取り止め、毎週水曜日の特設開催日以外にも相談は常時受付けていたが、周知方法が充分ではなく、相談件数も思わしくなかった。さらなる周知方法の工夫が必要である。

事業名	子どもの権利条例 相談・救済 3部3課会議
担当課	行政経営部人権推進課
所要額	0 円
事業概要	これまで実施してきた「公的第三者機関（子どもオンブズパーソン制度）準備委員会」で検討してきたことを、より具体的に検討することを目的とする
実施場所	泉南市立市民交流センターや市役所などの会議室
実施日	9月5日、10月12日、10月17日、10月30日、11月13日、11月24日 12月14日、1月10日、1月18日、1月24日、2月7日
R5年実施内容	健康子ども部子ども政策課 教育部人権国際教育課 行政経営部人権推進課の3部3課にメンバーを絞り、泉南市における相談、救済のための公的第三者機関の設置にむけての検討を行う。
検討課題	相談、救済機関を設置する意味を確認し、泉南市としての案を作成する。
実施回数	2回
自己評価	4月～6月までは、市直轄の救済機関についての議論を行い、8月には、条例委員会終了後に、会長を講師に相談救済の学習会を実施した。10月からは、これまで実施してきた公的第三者機関設置のための準備委員会から委員を縮小し、あらためて3部3課会議として、検討をはじめた。以前よりも委員を縮小したことで、会議設定が行いやすくなり、検討がすすみ、3月末までに泉南市における公的第三者機関の概要を作成することができた。

第7条 子どもの居場所づくり

第7条では、子どもの居場所づくりについて、「子どもは、休息と余暇、遊び、学び、文化的及び芸術的生活への参加の権利を持ち、そのために必要な居場所その他の環境の提供を受けることができます。」と述べられています。これに基づき、市は以下のような子どもの居場所づくりの取組をすすめています。中には、地域住民の既存の取組が市の取組とつながったり、市民と行政が協働で実施しているものもあります。また、居場所の指針については今後検討する必要があります。

視点

☐ その居場所は子どもの一般原則が担保された時間・空間・関係になっていますか☐ 子どもが参加しやすくなる工夫をしていますか☐ 居場所についての考え方をスタッフで研修したり共有したりしていますか☐ 目的に応じて居場所に参加している子どもの様子が伝わる記載になっていますか

1	タイトル	子ども元気広場事業
2	事業名	青少年センター運営事業
3	担当課	教育部 生涯学習課（青少年センター）
4	目的	学校、家庭、地域社会における様々な人々と行政が協働して子どもの教育のために力を出し合い「教育コミュニティ」の形成を図り、子どもの安全で安心な居場所を提供する。
5	事業概要	子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所として、青少年センター及び市民交流センターの一部を使って常設型の居場所を確保した。また市内の全小学校にてアウトリーチ型の遊び広場を実施した。就学前の児童とその保護者向けに埋蔵文化財センターを利用したちびっ子遊び広場も実施。
6	対象者	泉南市在住、市外の子ども
7	R5 実施内容	常設型の元気広場（青少年センター、市民交流センター）では、子どもたちが自分たちのやりたいことを主体的にできる環境を作った。青少年センターでは、泉南中学校のグラウンドや体育館等も利用し運動遊びを行った。アウトリーチ型の元気広場事業（市内全 10 小学校）では、運動場や体育館を利用し、おもちゃ遊びや運動遊びを行った。ちびっこ広場 in まいぶんとして、就学前の子どもとその保護者向けに、埋蔵文化財センターを利用して居場所事業を実施し、保護者同士がつながることができる居場所の提供を行った。
8	参加者数	延べ参加人数 13,079 名 (内訳) 青少年センター元気広場…6,058 名 市民交流センター元気広場…2,343 名 市内各小学校元気広場…4,110 名 ちびっ子広場 in まいぶん…568 名
9	実施場所	青少年センター、市民交流センター別館、市内各全 10 小学校、埋蔵文化財センター
10	実施日	延べ実施日数 691 日 (内訳) 青少年センター元気広場…288 日 市民交流センター元気広場…287 日 市内各小学校元気広場…73 日 ちびっ子広場 in まいぶん…43 日

11	所要額	583,451 円
12	成果	常設型の元気広場では、『みんな仲よし会議』や『こどもスタッフ』の意見を積極的に取り入れ、環境整備やイベントの実施をおこなう等、子どもたち主体的に活動できる環境を整えた。アウトリーチ型の元気広場では、「わたし遊び広場いっつも楽しみにしている!」「えー!もう終わりの時間なん!」と参加する子どもたちに、遊び広場が自分たちの居場所として位置づいてきており、「僕はしっぽとりしたい」「ドッチボールしよう」と一人ひとりがやりたいことを伝えてくれ、1回あたりの参加者も年々増えてきている。ほぼ全ての小学校での元気広場で、民生委員児童委員協議会の方々にご協力をいただき、安全見守りの体制を強化した。
13	課題	常設型の元気広場の来館者の急増や、各学校での元気広場での参加者の増加や実施日数の増加のニーズに対して、民生委員児童委員協議会の方々の御協力等もいただいているが、依然安全面については、配慮が必要となっている。夏季については、熱中症についても十分配慮しながら子どもたちの要望に応えられるよう対応していく必要がある。
14	R6 年度の取り組み	常設型については、元気広場事業ではなく居場所事業として位置づけ進めていく。アウトリーチ型の元気広場については、今後も民生委員児童委員協議会の方々へ協力要請を行った。併せて、ボランティアや家庭の協力についても呼びかけを行っていく。受付等、簡素化できるものについては簡素化し、安全対策に十分注意できるようにする。

1	タイトル	夏休みの子どもの居場所づくり事業
2	事業名	子どもの居場所づくり事業
3	担当課	教育部 生涯学習課（青少年センター）
4	目的	子どもが安心して遊べる居場所をつくり、その中で日常体験できないような活動を行うことで、学びにつながるような興味関心を高める事業を行う。
5	事業概要	青少年センター、埋蔵文化財センター、図書館の社会教育施設3館と人権国際教育課（CIR）による合同実施にて「みんな集まれ！こども遊び広場！」を実施。子どもが安心して遊べる居場所をつくり、その中で日常体験できないような活動を行うことで、学びにつながるような興味関心を高める事業を行った。
6	対象者	泉南市在住の子ども
7	参加者数	参加人数 263 名
8	実施場所	市内各小学校
9	実施日	7月24日、25日、26日、28日、31日、8月3日、4日、7日、8日、9日
10	所要額	931,852 円
11	R5 実施内容	色が変わる不思議な水とシュワシュワラムネづくりとして、おもしろ科学実験（青少年センター）と多文化に出会おう（図書館・埋蔵文化財センター・人権国際教育課）と題して CIR メンバー各国と日本の文化紹介を行う2部構成で各校実施した。
12	成果	空調の使える部屋を各校にお願いし、2部構成により実施したため感染症や熱中症対策を行い全小学校で実施することができた。「去年も来て楽しかったからまた来た」「毎回来るたびに楽しいイベントがある！」と言ったアンケート結果のとおり95%以上の参加者が楽しかったとの肯定的な感想をいただいた。長い夏休み期間に、子どもたちの思い出となるイベントを各課が協力して、5年も実施できている。
13	課題	夏季に実施するため、熱中症についてはかなり注意が必要だった。空調が使える部屋での実施だが、学校までの道中等については確認ができないため、受付時に体調の確認を行う等の対応をした。小中学生対象と幅広い年齢が対象のため、内容の選定に難がある。
14	R6 年度の取り組み	今年度は前年度同様定員を設定し、感染症や熱中症対策に取り組む形で実施予定。次年度以降について考慮し、参加しやすい形態での実施で調整した。またボランティア精神の醸成や今後サポーターとしてつながっていけるよう、中学生にはスタッフとしての参加も可能とした。常設型の元気広場については、子どもの居場所づくり事業として今後実施し、夏休みに限定した居場所ではなく、（夏休みも含め）展開していく。

1	タイトル	泉南市教育支援センターつばさ
2	事業名	教育支援センター事業
3	担当課	教育部 指導課
4	目的	家族以外の同年代の他者との生活への適応、児童生徒の情緒の安定や基礎学力の補充等に向けた支援を行うことで、学校復帰の一助と学校以外の居場所を確保する。
5	事業概要	泉南市立小中学校に在籍する不登校児童・生徒を対象に、家族以外の同年代の他者との生活への適応、児童生徒の情緒の安定や基礎学力の補充等に向けた支援を行うことで、学校復帰の一助と学校以外の居場所を確保する。
6	対象者	泉南市立小中学校に在籍する不登校児童・生徒で、心理的または情緒的な原因により学校に登校しないもしくは、できない状況にある者とする。
7	参加者数	2023年度7名の入室
8	実施場所	教育支援センター つばさ
9	実施日	月・火・木・金 9:30～14:30 水 9:30～12:00 (土、日、祝日、年末年始を除く)
10	所要額	305,437 円 (役務費+需用費)
11	R5 実施内容	○学習について、学校での教材を中心に自主学習。指導員や補助指導員が学習面のサポートをする。 ○地域・社会教育施設・民間施設等と連携し、自然体験や社会体験をする。 ○学期1～2回程度、在籍児童生徒の学校との連絡会議 ○毎学期、関係機関と学校を訪問し、児童生徒へ対応相談。 ○毎学期、保護者との面談。
12	成果	昨年度は、7名の入室があり、つばさでの指導やつばさでの仲間とのつながりの中、学校復帰への自信をつけ年度末には中学卒業2名を含む4名の退級があった。
13	課題	COCOLO プランにもあるように、不登校児童生徒の支援に加え、その保護者が必要とする情報の提供。在籍校とオンラインでつながり、指導やテストを受けられるようなシステムの整備。
14	R6 年度の取り組み	在籍校とオンラインでつながり、指導やテストを受けられるようなシステムの整備。 学習サポートでなく、学習指導を行うことができる体制の整備。

1	タイトル	泉南市立図書館 子どもの居場所づくり
2	事業名	図書館運営事業
3	担当課	教育部 文化振興課 図書館
4	目的	すべての子どもたちの居場所となること
5	事業概要	関係機関と連携した居場所づくり事業の実施や自習室の開放、ティーンズコーナーの整備等、0歳から18歳までの子どもの居場所づくりを推進する。
6	対象者	すべての子どもと、子どもを取り巻く大人や関係機関
7	R5 実施内容	子ども向きのイベントの開催や参加企画の開催、図書館が子どもの居場所として過ごしやすい場所となるよう工夫した。ティーンズコーナーでは、きらめきサポーターによる相談コーナーを、毎土曜日に開催した。
8	参加者数	自習室利用者数 延べ1,466名 館内での子ども向けイベント数 定例行事59回、特別行事19回、 参加者数 延べ1,258名（保護者を含む） きらめきサポーター活動回数42回、活動中の来場者数 延べ464名
9	実施場所	泉南市立図書館
10	実施日	図書館の開館日数（月曜、祝日以外） 287日
11	所要額	図書館運営事業に含まれる
12	成果	各年齢層にあった子どもを対象としたイベントを開催し、図書館の利用促進に努め、子どもの居場所づくりを行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・0歳～3歳児：乳幼児向けおはなし会（定例行事） ・幼児：えほんタイム（定例行事） ・幼児～小学生：おはなしひろば（定例行事）、春のこどもまつり、秋のボランティア共催おはなし会、クリスマス会、夏祭り、冬休み企画「絵本の福袋を借りよう」、 ・全年齢：かみしばい会（定例行事）、子ども読書週間企画「せんなんのキャラクターずかん」ぬりえ配布、冬休み企画「せんくまをさがせ」 ・中高生：ティーンズコーナーを設置し新聞、雑誌、資料等を置いた居場所づくり。10代向けの本と雑誌のリサイクル市 ほかに、図書館がすべての子どもたちの居場所となるよう、CIRの協力による多言語絵本の読み聞かせや収集、ボランティアによるさわる絵本の製作等を行った。行事をきっかけに、図書館を利用してもらい、子どもたちの居場所として図書館をPRすることができた。また、行事等で使用しない日の会議室を、自習室として開放し、土曜日、日曜日を含め年間を通じて、子どもたちの居場所とすることができた。
13	課題	子どもたちの居場所として、図書館がより利用しやすい場所になるような体制づくりと、子どもたちへの情報伝達の方法
14	R6 年度の取り組み	図書館が、すべての子どもたちの居場所であることを周知するため、各年代別のわかりやすい広報を行う。また、研修等により全職員の専門性を高め、子どもたちの受入体制の強化を図る。

第8条 子どもの権利に関する学習と教育①(子ども施設・行政職員対象)

第8条1項では、「市は、市の職員及び子ども施設の職員が、子どもの権利条約についての認識と理解を深め、この条例の具体的な実施に主体的に取り組み、もって子どもの最善の利益の実現に不断に努めることができるよう、子どもの権利に関する職員の積極的な学習及び研修等の機会を計画的に設けるものとします。」定めています。

これに基づき、市職員並びに子ども施設職員に対し、以下のような事業を実施しています。

視点

- 学習と研修等の機会を年間計画に位置付けて実施していますか
- 民間の施設に積極的に働きかけることにより、学習と研修の実施に結び付いていますか
- 積極的な広報、情報発信、資料提供に努めていますか
- 目的に応じた、受講者の様子がわかる記載になっていますか

1	タイトル	初任者・10年経験者人権研修
2	事業名	教職員人権教育事業
3	担当課	人権国際教育課
4	目的	市の教職員が子どもの権利条約についての認識と理解を深め、この条例の具体的な実施に主体的に取り組み、もって子どもの最善の利益の実現に普段に努めることができるようにする。
5	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中学校新規採用教職員・10年経験者・初任者講師・保育士等対象の人権教育研修を実施。 ・「子どもの権利」学習を通して、子どもの見方や背景を探り、子どもの話を聞くことの意味を考える。
6	対象者	令和5年度新規採用の教職員・10年経験者研修受講者・保育士・保育教諭等
7	R5 実施内容	・「子どもが安心して過ごせる学級づくり～子どもの権利の視点から考える～」をテーマに、日々のかかわりの中から見えてくる子どもの言動の背景にあるものを探り、子どもが安心して過ごせる学級づくりについて、子どもの権利の視点から考えた。
8	参加者数	50名（小中学校初任者21名、10年経験者19名、就学前施設職員10名）
9	実施場所	泉南市立埋蔵文化財センター
10	実施日	令和5年6月14日（水）
11	所要額	0円
12	成果	<p>・それぞれの校舎所で関わる子どもの実態を出し合うワークを通じて、子どもたちの意見表明権をどのように保障していくかということについて考えることができた。</p> <p>【受講者の感想より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ？」と感じたことで、すぐに子どもに注意をしたり、強い口調で叱るのではなく、まずは子どもの気持ちに寄り添い、子どもの気持ちを考えてから自分も言葉掛けができるようにしていきたいと思う。 ・教員が子どもの話を十分に聞いてあげたり、時には親との間に立ち子どもの気持ちを代弁できればと考えた。または、機関と連携し親と子どもに寄り添える教員になりたいと思う。 ・あなたのいいところはね、と伝えること。そして、子どもの行動には背景があること、家庭環境が大きく影響していることを意識して子どもと関わっていく。子どもの行動をみて、いつもこうだからと決めつけず、なぜ？と一旦立ち止まって考え、情報を集め、子どもの見方を振り返ることをしていきたい。子どもたちも事情を抱えて学校に来ているということを忘れない。 ・研修の最後に物語（絵本）を聞いて、子どものことを理解しないままきつく注意するのは違うなということに気づいた。すぐ注意しなければいけない時でも、子どもが行動したその背景について考え、なんでその行動したのかを子どもから聞き出して話しようと思った。
13	課題	・子どもの人権に対する知識や感覚は多様であるため、1度の研修だけでなく、各校で継続的に学ぶ機会を確保する必要がある。
14	R6 年度の取り組み	・今後も初任者、10年目という節目の時期に子どもの権利に関する研修を行い、自らの子どもに対する見方・考え方を見つめなおす機会としたい。

1	タイトル	泉南市人権研究協議会・専門部活動
2	事業名	泉南市人権教育研究協議会補助金事業
3	担当課	人権国際教育課
4	目的	市の教職員が子どもの権利条約についての認識と理解を深め、この条例の具体的な実施に主体的に取り組み、もって子どもの最善の利益の実現に普段に努めることができるようにする。
5	事業概要	・泉南市人権教育研究協議会の「集団づくりと自主活動」専門部及び「共に生きる」専門部において、子どもの権利にもとづいた集団づくりを進めるための研究を実施。
6	対象者	市内小中学校及び幼稚園に勤務する教職員
7	R5 実施内容	・「子どもが安心して過ごせる学級づくり～子どもの権利の視点から考える～」をテーマに、日々のかかわりの中から見えてくる子どもの言動の背景にあるものを探り、子どもが安心して過ごせる学級づくりについて、子どもの権利の視点から考えた。
8	参加者数	【集団づくりと自主活動専門部】部員数…94名 【共に生きる専門部】部員数…124名
9	実施場所	市内各園所
10	実施日	【集団づくりと自主活動専門部】 ①5月18日 ②7月16日 ③11月30日 ④2月26日 【共に生きる専門部】 ①5月18日 ②7月3日 ③10月18日, 11月10日, 11月24日（いずれも公開保育・授業） ④2月18日
11	所要額	0円
12	成果	・各校園所で行っている「子どもの権利学習」プランを交流することで、自校園所での振り返りとなった。 ・動画で実際の保育を見ることで、各校園所での取組を考えるきっかけとなった。 ・系統立てた計画を立てている校園所もあり、就学前・小学校・中学校と途切れのない取組が大切であると確認することができた。 ・保育、授業に関わらず、「子どもの声を聴く」（傾聴する）ことの大切さが確認された。 ・各校園所の取組みの成果と課題を共有し、次年度の取組みについて検討することができた。
13	課題	【集団づくりと自主活動専門部】 ・子どもの権利を日常にどのように落とし込み、生活と子どもの権利をどのように結び付けていくか。 ・就学前より取り組んでいるが、積み重なりにくさもあり、どのように取り

		<p>組んでいく必要があるのか。</p> <p>【共に生きる専門部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践だけでなく学習会で教員が学ぶ場を設け、学び、深める機会を設けることも必要。 ・授業後の討議を設定していなかったため、取組について深めるには至らなかった。
14	R6 年度の取り組み	<p>【集団づくりと自主活動専門部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの権利」「集団づくり」は子どもとかかわるうえで根底にあるものであり、他の部会でも大事であると考えられる。「子どもの権利」についての取組を各校園所で積み重ねていき、生活とどのように結び付けていくかを考えていく。 <p>【共に生きる専門部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もジェンダー平等教育の研究を行ってきた。2年続けて同じテーマで活動を行ったが「共に生きる」では他にも障害者理解教育、多文化共生教育等、多様なニーズに応じて実施できるようにしたい。 ・子どもたちが互いに認め合い、自分らしく安心してすごし、つながることができるようになるために大切にしたいことは何か考え続けたい。

1	タイトル	泉南市新規採用職員研修
2	事業名	子どもの権利に関する条例推進事業
3	担当課	人権国際教育課
4	目的	市の職員が子どもの権利条約についての認識と理解を深め、この条例の具体的な実施に主体的に取り組み、もって子どもの最善の利益の実現に普段に努めることができるようにする。
5	事業概要	新規採用職員研修において、「子どもの権利について」を実施。
6	対象者	令和6年度の新規採用職員
7	R5 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの権利～ワークショップを通して考える～」をテーマに、「子どもの権利条約」や「泉南市子どもの権利に関する条例」について知り、「意見表明と参加の権利」の実現にむけた取組について考えた。 ・子どもの意見をまちづくりに生かすことを意識するために、DVDなどを活用してせんなん子ども会議の活動を知らせた。
8	参加者数	21名
9	実施場所	泉南市役所 大会議室
10	実施日	令和5年7月13日
11	所要額	0円
12	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの部署で「子どもたちの権利に関わる業務」を出し合うワークを通じて、子どもの最善の利益を市としてどのように保障していくかということについて考えることができた。 <p>【受講者の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見落とししてしまいがちな、子どもたちの人権を、知らないうちに奪ってしまわないような大人になりたいです。泉南市の子どもたちが、幸せになれるように。日々の業務にも意識して取り組みたいです。 ・子どもだからということではなく、一人の人間として接していくことが大切なのだと思います。自分にできることを取り組んでいきたいです。 ・子どもの権利を守るために、条例や環境がすでに整えられていると思っていましたが、改めて私たち市役所職員の仕事を十分に行うことで維持し守られているのだと思い、しっかりと業務に取り組んでいかなければならないと思いました。 ・条例の内容をしっかりと見たのは初めてで、改めて大人は、その環境を整える義務があるのだと思いました。
13	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員の「泉南市子どもの権利に関する条例」認知度は年々向上している。(14人/21人)一方で、市が子どもの最善の利益を保障するためには、幅広い世代の職員が「子どもの権利」に関する学習機会を確保することが必要性だと感じた。
14	R6 年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度より子ども政策課に引継ぎを行った。

1	タイトル	泉南市人権教育指導者育成講座・管理職人権研修 「子ども会議10周年記念シンポジウム」
2	事業名	教職員人権教育事業
3	担当課	人権国際教育課
4	目的	市の教職員が子どもの権利条例についての認識と理解を深め、この条例の具体的な実施に主体的に取り組み、もって子どもの最善の利益の実現に不断に努めることができるようにする。
5	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員・管理職対象の人権教育研修を実施。 ・「子どもの権利」学習を通して、子どもの見方や背景を探り、子どもの話を聞くことの意味を考える。
6	対象者	<p>○泉南市の保育所・保育園・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教職員・保育士・保育教諭</p> <p>○泉南市内の保育所、保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校の校園所長、泉南市立幼稚園、小学校、中学校の教頭・副園長</p>
7	R5 実施内容	<p>子どもの権利に関する条例第4条「子どもの意見表明と参加」に基づき第5条に位置付け実施してきた「せんなん子どもの会議」の10年を振り返り、子どもの意見表明と参加の意義を実践から振り返り、子ども参加のまちづくりを考えるきっかけとするためにシンポジウムを行った。</p> <p>元泉南市子どもの権利条例委員会委員の浜田進士さんを講師・コーディネーターとして招き、「せんなん子ども会議」のメンバー、元メンバー、大人スタッフをシンポジストとして、「子ども会議10年を経て今、考えること」をテーマにそれぞれの思いを話していただいた。</p>
8	参加者数	53名参加
9	実施場所	あいびあ泉南 大会議室
10	実施日	令和5年7月26日
11	所要額	147,325円
12	成果	<p>「せんなん子ども会議」のこれまでの活動の紹介や、参加者の思い、また子どもの権利の保障という観点から見た意義について、講師からお話していただくことにより、「子どもの意見表明と参加」についての認識を深めることができた。</p> <p>【受講者の感想より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意見を聴くこと、活動を繋げていくことの大切さ。子どもに選択させ決定させることが重要であることを学ぶことができた。 ・子どもの意見を聞くことの大切さ。つつい大人の都合を子どもに押し付けたり、話を聞く余裕がなかったり理由を説明する時間がなかったりする。今一度気をつけようと思いました。 ・条例があることで、活動に根が生えていくようになること。携わっている

		<p>子どもたちにとって居場所であり、安心して意見が言える場であり、自分の存在価値を感じられる場所だということがわかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みを継続していく大切さを実感しました。こどもの権利に出会ったことで、視野が広がり、生活とこどもの権利を結びつけている登壇者にパワーをもらいました。また、おとなも諦めず理不尽に向き合わないといけないと登壇者に教えられました。 ・子ども達の力を感じた。話を聞いてもらう事が、どれだけ大事なのかを改めて感じた。泉南市がよそへ誇れる子ども会議なんだと聞いて嬉しく思った。続けていく事止めない事が大切で、携わってくださる方々のご苦勞も理解しないといけないと感じた。 ・今年度泉南市に勤め始めましたが、子どもの権利に関する条例が学校生活のいろいろなところに息づいているのを感じていました。この条例が実施義務のある実践型だからと聞いて腑に落ちました。 <p>その中ですてきな若者が育ってきていることは本当に貴重なことだと思います。各校の取り組みも、こんな青年たちをモデルとして思い浮かべながら取り組んでいきたいです</p>
13	課題	学校教育の中で、子どもの権利に関する条例第4条「子どもの意見表明と参加」をどのように保障していくか、具体的な事例や方策の共有が必要。
14	R6 年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は児童文学作家のくすのきしげのりさんを講師に招き、くすのきさんの作品にこめられた思いを知り、「泉南市子どもの権利条例」をもつ泉南市の教員・職員として、どのように取組や業務を進めていけばいいのかを考えたための講演会を実施する。

1	タイトル	学校園に対する人権国際教育課ヒアリング
2	事業名	人権教育推進事業
3	担当課	人権国際教育課
4	目的	学校が子どもの権利条約を伝え、子どもが権利の主体として知識・スキル及び態度を身につけていくことができるよう、子どもの権利に関する積極的な教育及び啓発活動を教育課程に位置付け実施するために行う。
5	事業概要	学校園に対する人権教育課ヒアリングにおいて、子どもの権利の学習を教育課程へ位置づけることを促し、その実施状況を把握する。
6	対象者	各学校園管理職・人権教育担当者
7	R5 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園2園、小学校10校、中学校4校で、各2回ずつ実施。 第1回：人権保育教育推進計画及び年度初めの学校の状況（児童生徒、保護者、教員）の共有を実施。 第2回：人権保育教育推進計画の進捗状況及び各取組の実施状況を確認。
8	参加者数	各校1～3名の人権教育担当者及び管理職
9	実施場所	<ul style="list-style-type: none"> 第1回：各学校園を訪問 第2回：市民交流センター
10	実施日	<ul style="list-style-type: none"> 第1回…令和5年5月 第2回…令和6年2月
11	所要額	0円
12	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回、第2回とも学校園より子どもや保護者の実態、人権課題に関する取組の様子や子どもの反応などをうかがうことができた。 ・どの学校園も「子どもの権利」を人権保育教育推進計画に位置付けている。 ・子どもの権利に関する取組は定着しており、11月20日の子どもの権利に合わせた取組だけでなく、児童会活動や生徒会活動、学校で行われる集会などでの取組が広がりつつある。
13	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが権利の主体として知識・スキルを身につけるためには、発達段階における系統的な学習が必要であり、幼小中の連携が求められている。
14	R6 年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校園の系統性を中心とした進捗状況を把握し、的確な指導助言を行う。

1	タイトル	ゆうてみいサポーターでつながる子どもの権利が大切にされる地域共生社会実現事業
2	事業名	地方創生推進交付金事業
3	担当課	行政経営部 人権推進課
4	目的	「子どもにやさしいまち」を具体化するために、条例第8条各項にいう「子どもの権利を学びあう」をテーマに連続研修を実施し、子どもの権利を尊重し、子どもの権利に関する条例を推進する人材を養成する。
5	事業概要	令和2年度～4年度までは、行政職員と市民研修は分けて実施していたが、国の交付金事業の終了とともに、令和5年度は、行政職員・学校教職員向けの研修と市民向け研修を一本化して実施することとした。
6	対象者	行政職員・学校園所教職員・市民
7	R5 実施内容	前期・後期研修ともに、下記のテーマで研修を実施する。 第1回 子どもの権利に関する条例について（人権推進課） 第2回 子どもの権利条約の子ども観をさぐる（吉永省三さん） 第3回 子どもの意見を受け止め支えるとは（横井真さん） 第4回 子どもの意見を受け止め支えるとは（山下裕子さん） また、前期のみ、第5回として、人権国際教育課主催の子ども会議10周年記念イベントも研修の1回とする
8	参加者数	前期 参加延べ人数 68名うち教職員は38名 （10周年記念イベントはこの研修の参加者のみをカウントしており、他の教職員の参加者数は含んでいない） 後期 参加延べ人数 38名うち教職員は15名
9	実施場所	第1回～第4回は泉南市立市民交流センター 第5回は、総合福祉センター
10	実施日	前期（6月15日 6月22日 6月28日 7月4日 7月26日） 後期（1月18日 1月30日 2月7日 2月15日）
11	所要額	280,000円（講師謝金）
12	成果	教職員や行政職員にとって、子どもという概念や、人権と権利の違い、権利条約ができるまでの歴史的な背景など、子どもの権利を考える際のベースとなる知識を得ることができること、相談から救済までを実際の例をもとに、子どもの話を聞くことの大切さを知ることができることなど、業務に生かすことができる内容であった。
13	課題	参加人数の確保
14	R6 年度の取り組み	学校教職員については、校園長会を通じて参加依頼、行政職員については、人事課を通じて参加依頼を行う。

1	タイトル	泉南市留守家庭児童会職員研修
2	事業名	留守家庭児童会運営事業
3	担当課	生涯学習課
4	目的	留守家庭児童会支援員が子どもの権利条約についての認識と理解を深め、「子どもの声や話を聴く」等、具体的に実務に活かしていけるよう学ぶ。
5	事業概要	留守家庭児童会職員研修として「子どもの権利を学び、子どもの声を聴く」を実施。
6	対象者	留守家庭児童会支援員（任期付職員）
7	R5 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの権利条約」や「泉南市子どもの権利に関する条例」等についての説明等 ・グループワーク「子どもはどんな状況でなら話しやすいか」 ・DVD 視聴 こども会議「なんでやねん」
8	参加者数	19名
9	実施場所	泉南市埋蔵文化財センター 講堂
10	実施日	令和6年2月26日
11	所要額	0円
12	成果	<p>・毎日子どもたちに接する仕事であり、「先生」でも「親」でもない、第三の身近な大人として改めて支援員達ができることや子どもへの接し方等を考えるきっかけとなった。また、その後、ゆうてみい(YOU TO ME)サポーター養成研修を受講するなど、さらに学ぶ人も出てきた。</p> <p>【受講者の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の時間に騒いでいる子どもがいれば「静かに」と声をかけてしまいがちですが、まずは「何かあったの？」と聞くようにしたい。 ・子ども同士のトラブルの中で保護者に経過説明が必要なとき、条約の内容にも触れながら対応していけば、納得して頂けるかなと思った。
13	課題	実際現場では余裕がなく、「児童の話聴く」ことが重要だと分かっているも起こるトラブルやケンカ等も含め、全件同じ丁寧な対応ができないのが現状であると思われる。心に余裕を持ち、頭の片隅に「先に話を聴いてみよう」という考えを常にもてるよう、支援員の資質を向上させていく必要がある。
14	R6 年度の取り組み	R6年度もテーマを変えながら引き続き人権研修を実施していく。

1	タイトル	生活の中の子どもの権利～子どもに寄り添い、子どもの話を聴く～
2	事業名	泉州ブロック主任児童委員研修会
3	担当課	生活福祉課
4	目的	泉州ブロック内主任児童委員の研鑽、情報交換・交流を目的とする。
5	事業概要	毎年2回ブロック内の輪番で研修を行う
6	対象者	泉州ブロック（高石市以南の12市町）主任児童委員、民児協会長
7	R5 実施内容	7年ぶりの泉南市での開催となったブロック研修会で、泉南市の子どもの権利に関する条例の取り組みを通して子どもの権利について学ぶ（講師は、人権推進課職員）
8	参加者数	72名
9	実施場所	泉南市総合福祉センター あいぴあ泉南
10	実施日	令和5年6月7日（水） 午後2時～3時半
11	所要額	35,975円
12	成果	<p>「民児協せんなん」の記事より 子どもたちのとっても身近な「なんでやねん」は子ども会議で話し合ったことを、人形劇の動画で魅せてもらい、耳の痛い話に笑いもあり。最後のワークショップでの「子どもの権利かるた」では、一枚一枚のカルタを通して各グループでの意見交換、交流がわきあいあいとできたように思います。改めて子どもの権利について、子どももおとなも共通にしかし、子どもたちの声に耳を傾け、その思いをしっかりと受け止めて対話することの大切さを知りました。子どもが毎日を安心して過ごし、様々なことを学び、健やかに成長するためのお手伝いができると思います。</p> <p>子どもに関わることも多い主任児童委員の皆様は、子どもの権利、特に子どもの意見（気持ち）を聴くことの大切さを伝えることができた。</p>
13	課題	今後、地域の実態や対応する子どもの姿に、子どもの権利を基盤に対応しようと思うと、継続して研修を受けたり、情報交換したりする機会が必要だと考える。
14	R6 年度の取り組み	第1回泉州ブロック主任児童委員研修会 忠岡町 「地域の子育て支援活動及びフレイル予防 栄養と口腔ケア」 第2回研修会 開催予定 ・各市町輪番で新しい取り組みを模索している。

1	タイトル	子どもの権利を学び、子どもの声を聴く
2	事業名	泉南市民生委員児童委員協議会 児童福祉部会
3	担当課	生活福祉課
4	目的	民生委員児童委員の児童福祉活動の推進を目的とする。
5	事業概要	年1回の部会研修
6	対象者	児童福祉部会
7	R5 実施内容	講演「子どもの人権について」
8	参加者数	26名
9	実施場所	泉南市総合福祉センター あいぴあ泉南
10	実施日	令和5年9月13日(水) 午前10時～11時
11	所要額	2,650円
12	成果	<p>感想から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの権利というと、どうしても子どもを甘やかすという意識がありましたが、研修を受けて子どもの権利の必要性を認識しました。 ● 身近にあたりまえだと思っていた事が子どもの虐待につながるということがよくわかりました。 ● 子どもの権利を勉強することにより、私も子どもの声を聞ける一人の大人として民生で活動したいと思います。 ● 子どもの権利を大切に考え、子どもたちから相談してもらえるような関係をめざしたいと思います <p>子どもの権利はわがままや甘えにつながるというような誤った認識をもっておられる方が、一人でもそうではないと認識するようになった。</p> <p>昨年度は、子育て支援部会、本年度は、地域福祉部会、主任児童委員研修会で、子どもの権利の研修を企画し、子どもに関わる民生委員児童委員協議会に所属する委員の多くの方が子どもの権利を知るきっかけを得た。</p>
13	課題	今後、地域の実態や対応する子どもの姿に、子どもの権利を基盤に対応しようと思うと、継続して研修を受けたり、情報交換したりする機会が必要だと考える。
14	R6 年度の取り組み	<p>講演「ひとり親家庭の子どもの現状について」、「ヤングケアラーについて」</p> <p>講師：市家庭支援課</p> <p>・テーマの増回</p>

第8条 子どもの権利に関する学習と教育②（子ども対象）

第8条第2項では、「子ども施設は、当該施設を利用する子どもたちに、子どもの権利条約を伝え、子どもが権利の主体として知識・スキル及び態度を身につけていくことができるよう、子どもの権利に関する積極的な教育及び啓発活動を教育課程に位置付け実施するものとします。」と定めています。これに基づき、以下のような取組を実施しています。

視点

☐子どもの権利についての教育（保育）を教育課程、保育課程等に位置付けて実施していますか☐子どもが権利主体として知識、スキル、態度を身に着けられるよう工夫していますか。☐社会教育施設においても、子どもの権利について学ぶ機会を設けるよう推進していますか☐目的に応じた、受講者の様子がわかる記載になっていますか

1	タイトル	子どもの権利を学ぶ
2	事業名	認定こども園事業
3	担当課	健康子ども部 保育子ども課
4	目的	『自分は大切な存在』『誰もがもっている4つの権利』について知る
5	事業概要	3歳児～5歳児を中心に、発達に応じた方法で「子どもの権利」について学ぶ。
6	対象者	3歳児～5歳児
7	R5 実施内容	3歳児…絵本『あなたのすてきなところはね』読み聞かせと4つの権利をスライドで説明し、自分は大切な存在であることを伝えた。 4, 5歳児…『みんなで学ぼう子どもの権利(就学前版)』を参考に、子どもの実態と照らし合わせながら「たった一つの大切な命、誰もが持っている4つの権利」を子どもが身近に感じられるように職員劇を通して伝えた。
8	参加者数	3歳児…40名、4歳児…37名、5歳児…38名、職員(延べ)…17名
9	実施場所	3歳児…保育室 4, 5歳児…遊戯室
10	実施日	3歳児…11月9日 4歳児…11月10日 5歳児…11月20日
11	所要額	0円
12	成果	3歳児は題材として難しいが、スライドを使って紹介することで、興味をもって見て発言もあったので、視覚教材が有効的であった。 4, 5歳児は職員劇をしたが、内容を事前にクラス担任と話し合い、子どもや保護者の実態に合わせて変更したことで、身近な出来事として感じる事ができ、「〇〇したらいいのに」と解決策を言う子どももいた。 また、各クラスで振り返りを行うことで、家庭での様子をつぶやくこどももいて、それぞれの家庭での様子や感じ方を知ることができてよかった。 4, 5歳児の時に他の歳児の職員も参加してもらい、子どものつぶやきをひろってもらったことで、様々な子どもの反応を知ることができた。
13	課題	全体場で発言しにくい子どもや、本当の気持ちを言っているのか気になる子どももいる。(振り返り時やそばにいる職員がつぶやきをひろったり丁寧に聞きとりをしたりした) この学習を日常におとしこむことの難しさを感じた。 保護者に発信しているが、周知までにいたっていない現状がある。
14	R6 年度の取り組み	職員劇は子どもにとって印象的であるので、今年も実態に合わせたものにしていく。 とりくみ方は担任と話し合い適切な方法を考えていく。 保育参加やお知らせ配信を利用して保護者にも発信していく。

1	タイトル	ゆうてみいサポーターでつながる子どもの権利が大切にされる地域 共生社会実現事業 ～世界の子どもの権利かるたで遊ぼう～
2	事業名	地方創生推進交付金事業
3	担当課	行政経営部 人権推進課
4	目的	世界の子どもの権利かるたを使って、楽しみながら子どもの権利について知る
5	事業概要	市民交流センター祭りを活用して、ゆうてみい (YOU TO ME) サポーターが中心になって、子どもの権利を伝える活動を行う
6	対象者	市民（子どもを含む）
7	R5 実施内容	市民交流センター祭りの多目的室のイベントとして、子どもの権利かるたを行う他、イベント時間以外は、1か所のブースで、集まってきた子どもたちを対象に、子どもの権利かるたを行う。
8	参加者数	11時～12時までの多目的室でのイベントスペースでのかるた大会（30名） その他のブースでのカルタ参加（正式数はカウントしていないが、10時～14時の間に常時、数名はかるたを行っている状況であった。（市民交流センターまつりに参加の延べ人数は500名）
9	実施場所	泉南市立市民交流センター
10	実施日	令和5年11月11日（土）
11	所要額	消耗品費（3,000円）
12	成果	<p>【ブース】 ゆうてみい (YOU TO ME) サポーターが中心になって、センターまつりに参加している子どもたちに声掛けを行い、かるたコーナーに誘った。サポーターは、子どもの権利かるたの読み札を読んだり、見守りをしたりして、子どもたちにかるたを通して子どもの権利のことを伝えることができた。</p> <p>子どもの発達年齢や、興味の持続時間などを考えて、かるたの枚数を少なくして実施するなどの工夫を行ったことで、遊びの途中で抜けていくなどを防ぐことができ、友達や家族とやり終えることができた。</p> <p>【ステージ】 サポーターが読み札を読んだ後、各グループにもサポーターがいたので、そのカードについての意見を出し合うこともでき、ブースで行うよりも、内容について考えることができた。</p>
13	課題	ブースでの遊びでは、じっくりと、かるたのカードにかかっている権利について、考える時間をもつことはできず、単なるかるたとしてプレイしてしまうが、きっかけの一つとしてとらえていきたい。
14	R6 年度の取り組み	市民交流センターまつりを利用して、子どもの権利をおとなや子どもたちに伝える取り組みを、ゆうてみい (YOU TO ME) サポーターと協力して実施していく。

第8条 子どもの権利に関する学習と教育③（保護者・市民対象）

第8条第3項では、「市及び子ども施設は、親その他の保護者及び市民等が子どもの権利条約に関する積極的な学習の機会をもつことができるよう、子どもの権利に関する社会教育、生涯学習および地域福祉活動を奨励し、必要な条件整備を図ります。」としています。これに基づき、以下のような取組が実施されています。

視点

☐保護者、市民等が継続的に子どもの権利を学ぶことのできる仕組みになっていますか☐研修を受けた親その他保護者および市民の、子どもの権利に対する興味・関心は深まりましたか☐目的に応じた、受講者の様子がわかる記載になっていますか

1	タイトル	『赤ちゃん教室』で保護者研修
2	事業名	地域子育て支援拠点事業
3	担当課	健康子ども部 家庭支援課
4	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識を得たり体験談を聞いたりすることで子育ての不安や悩みを軽減する。 ・講座やグループワークを通して仲間づくりをする。 ・市内の施設、関連機関、地域で活動している人たちを知るきっかけづくり。 ・保護者がスタッフとのかかわりから、自身を認められ自尊感情を高めたり、子育ての知識を得たりする。
5	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・主催は、わんぱくっ子育成推進会議。地域子育て支援センターひだまり、なるにっこ認定こども園、浜保育所、ニチイキッズ泉南保育園、信達こども園、西信達くねあ、ココアンジュ新家、民生委員児童委員協議会の担当者がスタッフとして関わっている。 ・1クール5回で、オリエンテーション、ベビーマッサージ・ベビーヨガ、手作りおもちゃ紹介、こども園の話、サークルの案内、講座『子どもの発達と事故防止』、講座『子どもの食生活(離乳食～幼児食)』、講座『生活の中の子どもの権利』を行っている。 ・教室終了後には、希望者が子育てサークルとして活動できるよう支援する。
6	対象者	生後4か月から1歳までの子どもと保護者対象の親子教室
7	R5 実施内容	・教室内の一講座として人権国際教育課職員が「生活の中の子どもの権利」をテーマに子ども会議のDVD視聴、グループワークを行い、子どもの人権について考える時間とした。
8	参加者数	参加組数 40組(延べ子ども数 175人) 1クール目 9組、2クール目 15組、3クール目 16組
9	実施場所	地域子育て支援センター『ひだまり』(1, 2クール) 樽井防災コミュニティセンター (3クール)
10	実施日	年3クール(1クール5回) 1クール 5～6月 2クール 8～9月 3クール 1～2月
11	所要額	0円

12	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・この講座をきっかけに泉南市子どもの権利条例を知る人がほとんどである。 ・タイトルを聞いて難しそうな話だと思った人が多いが、DVDや絵本、グループワークを通して具体的な内容を知る事ができ、自身が子どもころの経験、子を産み親となって感じる事等を周囲の人と共有することができ、身近な生活の中で子どもとどのように関わっていくのかを考えるきっかけとなった。 ・まだ赤ちゃんだから、ではなく赤ちゃんである今から大切にしていくことだと学び、育児のスタート時期に知ることができてよかったという声が多かった。 ・令和5年度後半は、総合福祉センター（あいびあ泉南）2階保育室が工事のため使えなかった。いつもの年と時期を変え樽井防災コミュニティセンターを借りて3クール目の赤ちゃん教室を実施することができた。
13	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・多機関が関わるため、個人情報の扱いには特に気を付けている。
14	R6 年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の工事が終了し、赤ちゃん教室はあいびあ泉南1階の『なないろルーム』、きょうだい児の保育は同じく1階の『ひなたぼっこ』を使うことで利用者とスタッフも動線がスムーズになる。 ・今までクールごとに担当地区の民生委員が参加していたが、泉南市内の様々な地区から親子が参加するので、1クール内に各地区から順番に参加し、住んでいる地区の民生委員と出会えるようにする。

1	タイトル	『子育て講座』で保護者研修
2	事業名	地域子育て支援拠点事業
3	担当課	健康子ども部 家庭支援課
4	目的	講師を招き子育てに関する学習やリフレッシュできる場の提供
5	事業概要	子育て中の保護者のニーズや課題に合ったテーマを設定する。 一時保育をすることで集中して講座を受けることができる。
6	対象者	未就学の子ども保護者
7	R5 実施内容	年間 8 回の子育て講座のうちの一つとして、『うわさと陰口～人とのかかわりを大切に～』のテーマで人権国際教育課職員が講座を行った。
8	参加者数	延べ 104 名、一時保育 105 名（内子どもの権利に関する講座は 8 名）
9	実施場所	地域子育て支援センター『ひだまり』、樽井防災コミュニティセンター
10	実施日	年 8 回（内子どもの権利に関する講座は 7 月 12 日）
11	所要額	0 円
12	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・うわさや陰口はどのように伝わっていくのか。知らず知らずのうちに固定観念や偏見を身に付けているが、なぜそうになってしまうのか、また固定観念を偏見や差別につなげないためにどうすればいいのか等をいくつかのワークを通じて考えることができた。 ・「情報がたくさんある社会で、何が本当で正しいのかきちんと判断したい。」「固定観念やうわさの広がり知らず知らずに自分の発言が人を傷つけていないか。」「正しい人権感覚を学ぶことができた。」「実際に小学校の授業で使う内容もあり、子どもが学校でどんなことを学んでいるのかを知ることができ、安心できた。」「この内容を家族で話し合いたい。という感想があった。 ・地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業では、たくさんの利用者とかかわり情報を伝えることが多い事業であるので、情報を正確に伝えるよう職員間でも講座内容を共有することができた。
13	課題	・子育て講座はどの講座も人気だが、人権関連の講座となると申し込む人が少ない。大切な内容であり、受講した人の満足度もとても高い講座であるので、受講者を増やすために事前に詳しい内容の周知を行う。
14	R6 年度の取り組み	・全 10 回の講座を計画し、その中の 1 回を人権国際教育課職員が担当し『生活の中の子どもの権利～子どもと話をしよう～』のテーマとすることを予定している。

1	タイトル	ファミリー・サポート・センター協力・両方会員研修会
2	事業名	ファミリー・サポート・センター事業
3	担当課	健康子ども部 家庭支援課
4	目的	会員として子どもを預かるうえで、知識や実技を学習することにより不安や悩みを軽減させることを目的とする。
5	事業概要	子育てに関する様々なテーマ(遊び・障害・食・事故)の学習を行った。
6	対象者	ファミリー・サポート・センター協力・両方会員、地域子育て支援センターひだまりの子育て応援団、その他
7	R5 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センター協力・両方会員に対する研修 12 講座のうちの一つとして、『子育て環境と親子支援』のテーマで、泉南市の子育てに関する制度と子どもの権利条約について伝える研修を行う。 ・障害に関すること、児童虐待に関すること、事故から子どもを守ることも人権を大切にすることの取り組みととらえ講座を行っている。 ・受講後に会員として活動ができるが、研修が年に 1 回しかないので必修 3 講座を DVD 化にしている。DVD 視聴後に活動を開始し、研修は次年度に受講してもらうことにしている。
8	参加者数	延べ 64 人(内子どもの権利に関する講座 6 人)
9	実施場所	地域子育て支援センター『ひだまり』、その他
10	実施日	年 12 回(内子どもの権利に関する講座 6 月 28 日)
11	所要額	0 円
12	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・会員でなくても研修内容に興味を持った一般の市民の方にも受講してもらうことで、ファミリー・サポート・センター事業の大きな課題である利用・両方会員の獲得に少しだが繋がった。 ・「子どもの権利について学ぶ機会はあまりなく、今まで知らなかった条例の事や制度の事を知ることができ勉強になった。」「制度だけでない昔ながらの地域の関わりもとても重要だと感じた。」などの感想があった。 ・制度の充実だけでなく、地域で子育てをサポートしてくれる人の存在、見守る人々の存在の大切を伝えることができた。
13	課題	・ファミリー・サポート・センター事業を利用したい子育て家庭(利用会員)は増えているが、それをサポートする協力会員の確保が難しい。
14	R6 年度の取り組み	・子どもの関わる施設の職員として、乳幼児の遊びの広場 SENNAN LITTLE PARK りるぱの職員も受講予定。

1	タイトル	保護者学習会
2	事業名	認定こども園事業
3	担当課	健康子ども部 保育子ども課
4	目的	絵本の良さを知り、興味を持つことで、親子で絵本を読む時間を作る。
5	事業概要	保護者の実態をふまえながら、様々なテーマで学習会を実施し、子育てに関する知識や人権力の向上を図る。
6	対象者	保護者
7	参加者数	保護者 13 名 職員 6 名
8	実施場所	遊戯室
9	実施日	9 月 1 日
10	所要額	0 円
11	R5 実施内容	『絵本を楽しもう』をテーマに様々な絵本を読み聞かせをしてもらいながら、絵本の時間を楽しい時間になるようにすることが大事であることを伝えた。無理やり最後まで読まなくてもよく、子どもが主役で子どもの意見を大切にすることなどを学んだ。
12	成果	様々な絵本を紹介してもらえ、保護者にも絵本の楽しさが伝わった。また、図書館のことを改めて知り、学習会後に図書館へ行って絵本を借りた保護者もいた。 絵本の読み聞かせ時に、途中で終わっても同じものを何度読んでも大丈夫。子どもの意見を大切にすることを知ることによって、読むことへの抵抗が少なくなった保護者もいてよかった。
13	課題	参加率がなかなか伸びない。
14	R6 年度の取り組み	保護者や子どもの実態に合った内容を考えていく。 講座だけでなく、子どもの出し物など様子を伝えることで、参加率を上げる。

1	タイトル	保護者学習会
2	事業名	子ども総合支援センター事業
3	担当課	健康子ども部 保育子ども課（子ども総合支援センター）
4	目的	子どもの安心できる生活や親子の関わりがもてるために、発達の特性理解や子どもへの関わり方・支援方法等を学ぶ
5	事業概要	・障害についての理解を深め、子どもへの関わり方や支援の方法を学び合い、我が子やその他の子どもへの理解につなげる。また保護者交流の場も設定し、リフレッシュや困り感の共有・育児不安の軽減を目指す
6	対象者	子ども総合支援センター利用保護者、一部の研修は一般参加可能（保護者交流会についてはリバースクール利用保護者）
7	参加者数	16人（保護者・職員）
8	実施場所	子ども総合支援センター
9	実施日	11月15日実施
10	所要額	0円
11	R5 実施内容	・11月15日（子どもの権利について）教育部人権国際課主幹を招いて研修。泉南市子どもの権利に関する条例（4つの子どもの権利）について、子どもの頃の遊びのエピソードを交えながら、「私たち大人にできることは？」4つの権利についてグループワークを行う。また絵本「おこだてませんように」の朗読など、子どもの権利についての研修を実施
12	成果	・参加した保護者の方から「子どもの話や思いをしっかりと聞くことの大切さが子どもの権利にもつながっていることを学び、今日から話を聞くを心がけていきたいと思いました」「子どもに権利の話をしてあげます」「小2の子どもが『おこだてませんように』を去年、読んだと話していました。うまく言えないようでしたが思うところがあったようです。」「自分の言動を見つめ直し改めていきたいと思います」「子どもの権利を守ることに繋がっているということを再確認できました。毎日の子育てに少し自信を持ってもいいのかなと嬉しい気持ちになりました」「せんなん子ども会議の話を書きいて大人が守るだけでなく子どもたち自身にも『自分たちには権利があるんだ！』ということを知って分かっていくことも大事なことと思いました」「この機会に知ることができとてもよかったです」等、様々な意見や感想が聞けた。子どもの権利とは？と聞かれて改めて考えると難しいと思う方もいたが、グループワークを通して、具体的に知ることによって自身の言動を改めて見つめ直したり、自信が持てたりと保護者の方への意識付けにも繋がったように思う。また、子どもたちが自分たちの権利について知ることの大切さも感じている保護者の方も数名いた。子どもの発達特性の理解と共に、今後も子どもの権利について周知していき、保護者の方と共に学ぶ機会の必要性を感じ、継続して取り組んでいきたい。
13	課題	参加者がなかなか増えない。
14	R6 年度の取り組み	タイトル名の工夫や毎月のおたよりに研修案内を掲載し、周知を行う

1	タイトル	公立幼稚園での保護者研修会
2	事業名	幼児教育事業
3	担当課	教育部 人権国際教育課 指導課
4	目的	子育て中の保護者が、子どもの権利を基盤においたかかわりができるよう、「子どもの権利」を周知、啓発する。
5	事業概要	外部講師（市民条例委員や行政職員等）を招聘し、身近な生活の中での子どもの権利について知り、子どもの権利についてともに考える。
6	対象者	園児の保護者
7	R5 実施内容	くすのき幼稚園 テーマ 生活の中の子どもの権利 あおぞら幼稚園 テーマ 子どもの権利ってなあに？
8	参加者数	くすのき幼稚園 18名 あおぞら幼稚園 12名
9	実施場所	それぞれの園
10	実施日	くすのき幼稚園 11月15日（水） あおぞら幼稚園 11月13日（月）
11	所要額	講師謝礼（あおぞら幼稚園：人権国際教育課より 10,000円）
12	成果	子ども子育て計画を策定するために行ったアンケートでは、就学前の保護者の条例の認知度は、知らないが5年前の49%から34%に減少している。その後、中学生になると知らないが24%となる。このことから考えても、子どもの権利に最初に出会うのは就学前の時期であり、この時に、子どもを権利主体と考える、子どもの泣き声や態度、表情も子どもの意見表明であるなどを知ることは、その後の子育てにとっても大きな影響を及ぼすと思われる。1度でも、2度でも子どもの権利に触れる機会のあることはとても大切である。権利というと難しいと感じる保護者が多いようだが、子どもの権利を知るとは、子どもが幸せになる＝自分も幸せになるということだと伝えている。子どもの権利を守るために、今、保護者の方が頑張っていることを認めることで自信を取り戻される保護者も多い。
13	課題	リピーターとして、毎年「子どもの権利」をテーマにした講座に申し込む人もいるが、まったく選択しない保護者もいるので、就学前の間に必ず一度は子どもの権利について学ぶ機会をつくっていきたい。
14	R6 年度の取り組み	研修後は子どもたちに行った「子どもの権利」の取り組みとともに人権通信で周知する。また、保護者の感想をもとに、できるだけ多くの参加を呼びかけていく。

1	タイトル	ゆうてみいサポーターでつながる子どもの権利が大切にされる地域共生社会実現事業
2	事業名	地方創生推進交付金事業
3	担当課	行政経営部 人権推進課
4	目的	「子どもにやさしいまち」を具体化するために、条例第8条各項にいう「子どもの権利を学びあう」をテーマに連続研修を実施し、子どもの権利を尊重し、子どもの権利に関する条例を推進する人材を養成する。
5	事業概要	子どもの権利についての連続4～5コマを前期・後期研修として年に2回実施する。
6	対象者	行政職員・学校園所教職員・市民
7	R5 実施内容	第1回 子どもの権利に関する条例について（人権推進課） 第2回 子どもの権利条約の子ども観をさぐる（吉永省三さん） 第3回 子どもの意見を受け止め支えるとは（横井真さん） 第4回 子どもの意見を受け止め支えるとは（山下裕子さん） また、前期のみ、第5回として、人権国際教育課主催の子ども会議10周年記念イベントも研修の1回とする
8	参加者数	前期 参加延べ人数 68名うち市民は30名 後期 参加延べ人数 38名うち市民は15名
9	実施場所	第1回～第4回は泉南市立市民交流センター 第5回は、総合福祉センター
10	実施日	前期（6月15日 6月22日 6月28日 7月4日 7月26日） 後期（1月18日 1月30日 2月7日 2月15日）
11	所要額	280,000円（講師謝金）
12	成果	新しい参加者を確保することが難しいが、これまでの受講生の中には、もっと知りたいと再度受講される方も数名存在する。深く学び、子どもの権利を理解し実践する人が増えることは、とても有意義である。
13	課題	子ども食堂やきらめきサポーター、ふくまちサポーター、民生児童委員、人権擁護委員など、子どもにかかわる人に声掛けをしてきたが、毎回の参加者の確保が難しい。
14	R6 年度の取り組み	交付金事業の5年目となり、交付金事業としては最終の年度となる。当初の予定であるゆうてみいサポーター登録者数は50名であるが、令和5年末は43名である。50名に達成するよう、引き続き、参加依頼をしていきたい。

第9条 親その他の保護者の支援

第9条では、「親その他の保護者は、子どもの権利を尊重し、子どもの発達する能力と一致する方法で、子どもの養育についての責任、権利及び義務を果たすことができるよう、必要な支援を受けることができます。」と定めています。しかし現実においては、子どもの年齢にかかわらず、子どもの生活習慣やしつけ、発達や発育、教育や将来のことなど、さまざまな悩みを抱えながら、ゆとりをもって子どもに接することができない状況にある親や保護者も少なくありません。こうした親や保護者の置かれている現実を重視して、虐待や貧困から子どもを救うために、必要な支援を受ける親や保護者の権利をうたっています。市は、「保護者との共同に努める中で」保護者が子どもの権利を尊重して子どもを養育できるよう保護者自身が利用することのできる仕組みを整え、必要な支援に努めます。

視点

☐ 保護者の現状を把握していますか
☐ 保護者自らが自己の責任と権利・義務を果たすことができるよう仕組みや支援の内容を考えていますか
☐ 保護者の悩みや不安の軽減につながっていますか

1	タイトル	教育相談
2	事業名	教育支援センター事業
3	担当課	教育部 指導課
4	目的	保護者の幅広い相談にのる
5	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校園生活や家庭生活での子どものことで、保護者から相談を受ける。電話または来庁による相談事業。 ・相談窓口として、教育支援センターつばさ指導員等（任期付職員 2 名・会計年度職員 1 名）、教育相談員（任期付職員・臨床心理士等）1 名）、SSW（会計年度職員・社会福祉士等 5 名）、指導主事等が対応。 ・学校の指導に対する保護者の不安や登校しぶりに関する相談。発達や友達関係についての相談。DVに関する相談等。 ・相談内容については、保護者の同意のもと、当該学校園と連携し問題の解決にあたる。必要に応じて、SL（スクールロイヤー）・SC（スクールカウンセラー）・SSW（スクールソーシャルワーカー）・CSW（コミュニティーソーシャルワーカー）・家庭児童相談室・教育支援センターつばさ・子ども総合支援センター・保健センター等関係機関と連携して対応。
6	対象者	泉南市在住の親子
7	R5 実施内容	<p>○不登校、問題行動、発達課題、家庭状況の複雑化等、様々な要因が絡んだ相談ケースは増えている。</p> <p>○SC・SSW・教育支援センター指導員・指導主事等が相談対応をしている。</p> <p>○子どもにかかわる課題は多様化している。最近では、保護者の思いと子どもの悩みに齟齬がある場合が多く、その時は保護者の思いを十分にくみ取り子どもへの対応について指導助言することを心がけている。</p> <p>○巡回訪問として、家庭児童相談室、教育支援センター、子ども総合支援センター等と連携し、年間 3 回全ての小中学校を訪問している。子どもの実態把握を行い、不登校や問題行動の未然防止に努めているところである。</p>
8	参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・全件数を合わせるとのべ 1,841 件・継続して支援を行っているケースも多い。 相談内容については、 家庭環境に関すること（虐待・貧困を除く）404 件 不登校に関すること 345 件 発達障がい等に関すること 271 件 心身の健康・保健に関すること 148 件 友人・教職員等との関係に関すること 229 件 いじめ、暴力行為、非行等の問題行動に関すること 146 件 児童虐待に関すること 136 件

		<p>貧困に関すること 82 件</p> <p>ヤングケアラーに関すること 68 件</p> <p>その他 12 件</p>
9	実施場所	教育委員会 指導課（相談ブース）
10	実施日	・月～金曜日 9：00～17：30（土、日、祝日、年末年始を除く）
11	所要額	0 円
12	成果	<p>○幅広い相談に対応することで、保護者の不安軽減、及び解消につながっている</p> <p>○関係機関（家庭児童相談室や子ども総合支援センター等）と連携し、ケース会議につなげている。</p>
13	課題	○相談のニーズが年々増加するとともに、相談内容が複雑化しており、現在の相談体制だけでは対応が難しいケースも見られる。
14	R6 年度の取り組み	<p>○幅広い相談体制を継続し、保護者の相談に丁寧に対応していく。</p> <p>○相談件数の内訳（保護者相談・子ども相談）の区別していきたい。</p>

1	タイトル	りんごの広場（つどいの広場事業）
2	事業名	子ども総合支援センター事業
3	担当課	健康子ども部 保育子ども課（子ども総合支援センター）
4	目的	保護者の育児不安の軽減や早期療育につなぐ
5	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・発達面に関して課題のある在宅の未就学児に遊びを提供したり、保護者からの相談を受けたりする。また保護者同士の交流の場とする ・周囲に気兼ねせず安心して遊ばせることができる場所の提供をする ・保護者からの相談を受けることで育児不安の軽減や子どもの発達に関する早期療育につなぐきっかけにする
6	対象者	発達面に関して課題のある泉南市在住の在宅の親子
7	参加者数	計 30 回 延べ 150 名参加
8	実施場所	子ども総合支援センター・保健センター・あいびあ泉南
9	実施日	毎月第 1, 2, 3 木曜日と偶数月の第 4 木曜日（8 月の実施なし） 10:00～11:30 （子ども総合支援センター・保健センター・あいびあ泉南の 3 か所で、週替わりで開催）
10	所要額	0 円
11	R5 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分で選び、自由に遊べるよう玩具や遊具などを準備し、発散して遊べる場の提供。また、保護者同士の交流が出来るよう繋いだり、保護者の子育てに関する相談と一緒に考え共有し、提案したりする ・育児不安の軽減や早期療育につなぐきっかけにする ・子ども総合支援センター事業の広場事業以外に地域の福祉委員会主催の広場事業（一丘地区の「どんぐりひろば」、砂川地区の「のびのびひろば」）にも参加し、発達面で課題のある子どもの保護者からの相談を受けている。
12	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者の方が行きなれた場所や行ったことのある場所を開催場所とすることで利用しやすくしている。3 か所それぞれの場所を利用する親子もあり、違う環境での遊びを楽しんでいる。また、予約なしで利用できる事や公園に遊びに行きにくい親子など、安心して遊べたり、保護者同士で話をしたりすることができる場として、くり返し利用する親子が多い。 ・親子教室利用児・リバースクールのきょうだい児が主に継続して利用してくれている。また保護者同士の繋がりでも子どもの発達が気になる保護者の方の利用もあり、早期の発達支援に繋がっている。 ・子ども総合支援センターの親子教室入室やリバースクールの入所に繋がる子どももあり、継続した支援ができた。
13	課題	新規の方の利用が少ない
14	R6 年度の取り組み	引き続き保健センターと連携し、発達に課題のある在宅児の遊びの場、保護者の交流の場として周知し、早期の支援に繋がっていきたい

第10条 子ども施設職員の支援

第10条では、「子ども施設の職員は、その職務を通して子どもの最善の利益を具体的に実現していくことができるよう、必要な支援を受けることができます。」としています。

これに基づき、以下のような取組が実施されています。

視点

子ども施設職員の現状や、必要としている支援を把握していますか

子ども施設職員が、子どもの最善の利益を実現していくために、必要な支援となっていますか

1	タイトル	泉南市内保育施設合同研修会
2	事業名	子ども子育て支援事業
3	担当課	健康子ども部 保育子ども課
4	目的	研修会を通して子育て支援の共通認識を図るとともに、各施設の情報交換や日々直面している悩み等を共有しながら、自分の保育を見つめ直す機会とする。
5	事業概要	毎年テーマを決め、研修会を実施。その中に必ず公・民の職員が交流できるグループワークの時間を設ける。
6	対象者	市内保育施設（公・民）の職員
7	R5 実施内容	大阪総合保育大学教授の瀧川光治さんを講師として招聘し、「保育施設における不適切保育について」をテーマに学びあった。
8	参加者数	12 施設、27 名（公立：9 名・民間：14 名・行政：4 名）
9	実施場所	泉南市立埋蔵文化財センター 2 階講堂兼視聴覚室
10	実施日	令和 6 年 3 月 11 日
11	所要額	30,000 円
12	成果	<p>昨年度より参加人数が増え、民間施設職員にもたくさん参加してもらえたことは良かった。各施設の保育内容に違いはあるが、市内の保育施設で一緒に話を聞き、同じ認識を持つことができたのではないかと思う。また、公・民交えてのグループワークでは日頃の保育の悩みなどを出し合いながら“人権保育”について活発に意見交流していた。</p> <p>参加した職員からは「不適切保育と人権感覚が関わっているということを改めて感じました。」「職員全員に聞かせたい内容でした。」「不適切を正す話ではなく、根本的に私たちの価値観や意識の問題というところに納得いくような学びの研修でとてもよくわかりました。」「私たちが意識すること。自分の考え方、見方を振り返ること。そして子供たちを肯定的にみる力をつけること頑張ります。」などの感想があった。</p>
13	課題	保育士不足により園を抜けての参加が難しい状況にある。
14	R6 年度の取り組み	10 月 31 日（木）13：00～15：00 に開催予定 少しでも多くの職員が参加できるよう、午睡時間に合わせて実施する。

第11条 せんなん子ども支援ネットワーク

第11条では、せんなん子ども支援ネットワークについて、3項にわたって定めています。第1項は、子どもには「社会から必要な支援を受ける権利」があると定めています。第2項は、その権利を子どもが享受できるよう、「せんなん子ども支援ネットワーク」を組織すると定めています。そして第3項は、このネットワークの役割と取り組みについて定めています。しかしながら、ネットワークの構築は未実施であるため、今後、取り組むべき課題となっています。

視点

- ネットワーク相互の情報発信や学習、交流や啓発等の活動を行いましたか
- ネットワークに加盟する団体により、子どもは社会から必要な支援を受けることができますか
- ネットワークの賛同に必要な情報発信や広報を行いましたか

ネットワーク構築に向けて

子どもを支援する活動を行っている団体等が、子どもの権利についての理解を深め、かつそれぞれの団体等の活動がせんなん子ども支援ネットワークの形成につながるよう取り組む。

第12条 施設等における子どもの安全

第12条では、「市は子ども施設その他子どもが利用する施設等における子どもの安全を確保するため、指針を定めます。」とあり、市はそれに基づいて「所管する施設等における子どもの安全確保のためのシステムを整備し、適切に機能するよう、必要な手立てを講じます。」としています。また、市長は、それらのシステムの検証を行うものとし、そのために子どもの安全委員会を設け、その活動に対して、市及び子ども施設は積極的に協力し援助するものとしています。市では防災対策や危機管理マニュアルの設定、また子どもの登下校の安全確保について、市民と協働して取組を推進しています。子どもの安全委員会の設置や指針づくりは今後の課題となっています。

視点

- 各施設の規定マニュアル等を見直し体系的なシステムとして整備するよう、各施設に働きかけていますか
- 子どもの安全にかかわるシステムが市民等に知らされていますか
- 改善が必要な施設に対して適切な指導助言を行っていますか
- 定期的に安全委員会が開催されていますか

1	タイトル	安全パトロール事業と安全講習会
2	事業名	学校支援地域本部事業
3	担当課	教育委員会 教育部 指導課
4	目的	安全な町づくりを地域で推進する
5	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 登下校中の通学路における児童生徒の安全を見守る市民ボランティア団体に補助金を交付し、青色パトロール等の安全パトロール事業を支援する。 ● 市長から学校長を通じて感謝状を授与。
6	対象者	児童
7	R5 実施内容	6月30日 第1回泉南市青色防犯パトロール連絡会を実施 8月4日（安全講習会）
8	参加者数	青パト登録者数約250名
9	実施場所	各小学校区
10	実施日	週に2～3回実施。
11	所要額	1,300,000円
12	成果	<p>○登下校中における児童生徒の安全を第一に考え、大きな事故が生じなかったことは評価される。</p> <p>○7月には「社会を明るくする運動」のステッカーを車両に貼り巡回活動実施。</p> <p>○泉南市安全なまちづくりボランティア表彰</p>
13	課題	会員の高齢化（若い方の新規加入が中々ない状態がどこの小学校区でもある）
14	R6 年度の取り組み	地区防犯・青少年指導員・民生児童委員との協力関係を構築していきたい。

1	タイトル	通学路危険個所調査
2	事業名	通学路交通安全プログラム
3	担当課	教育委員会 教育部 指導課
4	目的	児童の交通安全の対策
5	事業概要	通学路危険個所の調査内容を元に、各関係機関と年1回対応検討会議を行い改善に努める
6	対象者	児童
7	R5 実施内容	通学路交通安全プログラム協議会
8	参加者数	協議会参加者 約10名
9	実施場所	市内通学路
10	実施日	令和5年11月21日
11	所要額	0円
12	成果	通学路の危険個所の解消が進んだ
13	課題	予算の都合上、対応に時間がかかることがある
14	R6 年度の取り組み	引き続き各小学校からの要望の取りまとめ、改善を進める

第13条 災害時における子どもの安全

第13条では、「市は、台風、地震、津波その他の災害の発生時並びに復旧及び復興時における子どもの安全について、子どもの権利を基盤として、子どもの最善の利益を第一に考慮し、子どもの参加の権利を尊重するなかで確保するものとします。」としています。

これに基づき、以下のような取組が実施されています。

視点

☐ 災害時のマニュアル等（子どもの権利の視点を含む）が作成されていますか
☐ マニュアル等が市民等に知らされていますか

1	タイトル	伝市メール講座
2	事業名	伝市メール講座事業
3	担当課	行政経営部 危機管理課
4	目的	災害への備えについて学ぶ
5	事業概要	防災に関するテーマについて、小学校に出向き講演を行う
6	対象者	小学4年生
7	R5 実施内容	防災マップの見方、家庭内での備蓄、風水害への備えについての講座を実施。
8	参加者数	鳴滝小学校 47名 樽井小学校 70名
9	実施場所	鳴滝小学校、樽井小学校
10	実施日	鳴滝小学校 令和5年7月18日 樽井小学校 令和5年11月20日
11	所要額	0円
12	成果	<p>鳴滝小学校</p> <p>「自分たちの住んでいる地区の危険箇所を知りたい。」「オリジナルのハザードマップを作成したい。」「危険箇所を調べる基準を知りたい。」等、学校での防災学習で出た子どもたちの意見を元に、本講座を実施した。講座実施後、子どもたちからは、「教えてもらったことを生かして、防災ポスターを作る。」「次は自分たちがみんなに防災のことについて知らせていきたい。」という意見が出た。万一の時は自分たちが役に立ちたいという意識が生まれ、自助、共助の大切さを学ぶことができた。</p> <p>樽井小学校</p> <p>学校での防災学習の中で、「災害が起こったときに誰が、救助しているのだろうか?」「市役所はどのような災害への備えをしているのだろうか?」等の疑問が子どもたちから生まれた。その疑問に答えるため本講座を実施した。講座実施後、子どもたちからは、「知りたかったことも知れたし、他にもいろいろなことを知ることができた。」「地震、津波のときにどうしたらいいかわかった。」「ハザードマップの見方がわかった。」という意見が出た。万一の時に、自分の身を守る自助についての意識を高めることができた。</p>
13	課題	多くの子どもたちが防災マップ初めて見ており、子どもたちにとって防災マップは身近なものでないこと。
14	R6 年度の取り組み	伝市メール講座の申請があれば都度実施する予定。子ども防災手帳を活用する等、子どもたちにわかりやすい形で防災を伝えていく。

第14条 泉南市子どもの権利の日

第14条では、「子どもの権利条約が国際連合総会で採択された11月20日を泉南市子どもの権利の日」と定め、「子どもの権利の日には、その意義を具現するための行事を計画し、実施します。」とされています。子どもの権利の日を基軸とした週間や月間を中心に、子ども施設等における取組が以下のように実施され、少しずつ広がりを見せています。

視点

- 子どもの権利の日の取組みを計画的、横断的に実施していますか
- 学校園所における子どもの権利の日の取組を支援していますか
- 子どもの権利の日の取組に、子どもの意見表明、参加を取り入れていますか
- 子どもの権利の日の取組についての振り返りを行っていますか

1	タイトル	泉南市子どもの権利の日の取組
2	事業名	子どもの権利に関する条例推進事業、人権擁護委員協議会補助事業 人権啓発事業
3	担当課	健康子ども部 子ども政策課、行政経営部 人権推進課 教育部 人権国際教育課
4	目的	「子どもの権利の日」について市民へ広報すること
5	事業概要	担当課と連携し、子どもの権利の日について広報する
6	対象者	市民
7	R5 実施内容	<p>子ども政策課：市役所本庁に子どもの権利の日懸垂幕を設置 子どもの権利の日啓発チラシを 9,000 枚作成し、市内各校園所に配布</p> <p>人権推進課：広報用机上スタンドを作成し、子ども・子育てに関係する各課及び出先機関の窓口に設置 「11月20日が子どもの権利の日であること」と「悩んだ時の相談窓口」を印刷したマスクを全中学生に配布</p> <p>人権国際教育課：市役所本庁ロビーで「せんなん子ども会議作成 DVD」を上映</p> <p>各課共通：市役所本庁ロビーにおいて、子どもの権利の日啓発パネルを設置、人権作品展において子どもの権利について参加型コーナーを設置 広報せんなん 11月号に子どもの権利の日を掲載</p>
8	参加者数	来庁者または広報を見た市民及びチラシ、マスクを受け取った各校園所に在籍する児童
9	実施場所	市役所本庁ロビー
10	実施日 (活動日数)	11月13日～11月24日 (12日)
11	所要額	52,000円
12	成果	権利の日啓発チラシを昨年度より増刷し、あいぴあ泉南や公民館など配架先を増やし、出来るだけ多くの方に子どもの権利の日について啓発するよう取り組んだ。
13	課題	新たに配架した場所では、子どもの権利の日についての認識がないところもあった。
14	R6 年度の取り組み	R5 実施内容の継続と昨年度とはまた違った場所に配架を行うなど、啓発に取り組む。

1	タイトル	学校園における『子どもの権利の日』の取組についてアンケート
2	事業名	人権教育推進事業
3	担当課	人権国際教育課
4	目的	子どもの権利条約が国際連合総会で採択された11月20日を「子どもの権利の日」として広く周知し、その意義を具現するための行事を計画し、実施するために行う。
5	事業概要	11月20日の「泉南市子どもの権利の日」またはその前後の子どもの権利に関する取組についてアンケート調査を行い、各学校園における「子どもの権利」の普及を目指す。
6	対象者	市内子ども施設の教職員及び市内小学校・中学校の全児童生徒
7	R5 実施内容	<p>○取組に際して作成した資料、保護者への広報、実施日の写真などがあれば提出を依頼した。また、アンケートを取りまとめたものを冊子にし、各校園所に配布した。</p> <p>○児童生徒に対しては、アンケートにて子どもの権利及び子ども会議に対する認知度を調査した。</p> <p>【質問項目】</p> <p>①子どもの権利のことを知っていますか？</p> <p>②11月20日の「泉南市子どもの権利の日」を知っていますか？</p> <p>③「せんなん子ども会議」を知っていますか？</p>
8	参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・取組アンケートは就学前施設11園所・小中学校14校から回収 ・児童生徒アンケートは小学校2750名（回収率95.1%）中学校1352名（回収率87.0%）
9	実施場所	各学校園所
10	実施日	令和5年10月18日依頼、令和5年12月8日回収
11	所要額	0円
12	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学校園で、子どもの権利の日の前後に子どもを対象とした啓発活動が実施されている。 ・公立幼稚園では、職員劇等を通じた権利学習や保護者研修、環境や遊びを工夫し、子どもの権利を日常的に感じられるような取組が定着している。 ・全校集会での紹介だけでなく、子どもの権利を知る授業、子ども参加・意見表明を意識した児童会・生徒会等、取組の広がりも見られた。 <p>【認知度アンケート結果】※質問に「はい」と答えた児童生徒の割合</p> <p>①子どもの権利のことを知っていますか？ 小学校…48.9% 中学校…52.7%</p> <p>②11月20日の「泉南市子どもの権利の日」を知っていますか？ 小学校…33.6% 中学校…17.1%</p> <p>③「せんなん子ども会議」を知っていますか？ 小学校…39.2% 中学校…45.2%</p>
13	課題	認知度の向上のためにも、年間を通じた継続的な取組や校種間が連携した体系的な学習の必要性を感じた。
14	R6 年度の取り組み	本年度も継続して調査を行い、ヒアリングや担当者会等と通じて好事例の共有を行う。また調査結果を指導助言の際に活用したい。

第15条 条例の実施と広報

第15条では、市は、この条例の目的（「子どもにやさしいまち」の実現）を達成するために、総合的かつ計画的に条例を実施するものとします。」と定めています。また、「市はこの条例の内容及び実施に係る計画等について、市民等へ広報する役割を果たさなければなりません。」これに基づき、以下のような広報活動を実施しています。

視点

☐ 条例の実施を教育委員会、市長部局等が協力、連携して、総合的、計画的に実施していますか☐ これまでの実施や広報の方法について、振り返りをしていますか☐ 条例の効果的な実施に関して泉南市子どもの権利に関する推進本部会議を定期的に行っていますか☐ 条例の実施状況について、市民等に知らせていますか 施策に生かしていますか

1	タイトル	泉南市webサイトによる広報
2	事業名	子どもの権利に関する条例推進事業
3	担当課	人権国際教育課
4	目的	子どもの権利の普及のため、泉南市子どもの権利に関する条例並びに、条例に関する取組について、市民及び広く社会に広報する。
5	事業概要	泉南市のホームページにおいて、「せんなん子ども会議」のページを掲載する。
6	対象者	ホームページ閲覧者
7	R5 実施内容	<p>・ 随時更新を行った。</p> <p>【ホームページより】※せんなん子ども会議の紹介 「せんなん子ども会議とは？」</p> <p>条例では、子どもの意見表明と参加の権利を保障しています。子どもは、自分に何らかの関係することや自分が必要としていることについて、自己の権利として自分の意見を表明したり表現したりして、その社会の一員として積極的に参加することができます。(条例第4条)</p> <p>そのことを具体化するために、条例第5条ではせんなん子ども会議の設置を定めています。子どもの権利について学んだり、広報したり、泉南のまちや地域、学校について話し合ったりしています。泉南市がこどもにやさしいまちとなるように活動を続けています。</p>
8	参加者数	ホームページ閲覧者
9	実施場所	泉南市ホームページ
10	実施日	随時
11	所要額	0円
12	成果	インターネットを利用した広報は、広く市民に活動を伝えるための効果的なツールとなっている。
13	課題	より市民に伝わりやすい内容を検討する必要がある。
14	R6 年度の取り組み	継続的に更新を行う。

1	タイトル	広報せんなん『シリーズ:子どもの権利』
2	事業名	子どもの権利に関する条例推進事業
3	担当課	健康子ども部 子ども政策課
4	目的	子どもの権利や子どもの権利に関する条例に関する取り組みを市民に発信し、子どもの権利についての広報・啓発を行う。
5	事業概要	泉南市子どもの権利に関する条例に関する 取組について、市民に分かりやすく知らせるために、広報せんなんにシリーズ記事を掲載する
6	対象者	市民
7	R5 実施内容	シリーズ:子どもの権利 NO123 「ゆめぱのじかん」 きみは、きみのままでいい 子どもの居場所と大人の役割を考える映画上映会を開催して NO124 子どもの権利 子ども会議から市長へ ～子どもの権利 私たちの思いを聞いてください～ NO125 子どもの権利 子ども会議からのメッセージ ～友達安心ルール6カ条～ NO126 子どもの権利 子ども会議が始まりました ～今年のテーマを考えよう NO127 世界の子どもの権利かるたで考えよう ～暮らしの中で子どもの権利は守られていますか～ NO128 子ども会議 10年を考えるシンポジウム ～子ども参加でつくるまちづくり～ NO129 ご存じですか?子どもの権利条例委員会と市民モニター会議 NO130 11月20日は泉南市子どもの権利の日 ～子どもの権利について考えてみましょう NO131 子ども会議グリーンビーチプロジェクト ～11/18 タルイサザンビーチをきれいにして、学ぼう NO132 第12次泉南市子どもの権利条例委員会報告 NO133 泉南市子どもの権利の日をご存じですか ～各学校の取組～ NO134 災害時の子どもの権利 ～子どもにやさしい空間～
8	参加者数	広報せんなんを見た人
9	実施場所	広報せんなん
10	実施日	「広報せんなん」に毎月掲載
11	所要額	0円
12	成果	毎月掲載できる枠組みを確保することができているので、「子ども会議」「条例委員会」「市民モニター会議」「子どもの権利研修」「泉南市子どもの権利の日」など、様々な内容を伝えることができている。また、1月の震災を受け、3月には、災害時の子どもの権利について発信することができた。
13	課題	毎月掲載し、NO134号まで来たが、どれほど読まれているのか把握できていない。ゆうてみいサポーター研修に参加している人に聞けば、子どもの権利に関心のある人なので、「読んだことがある」「読んでいる」という声は聴くことができるが、多くの人に読んでいただくには、もっと工夫が必要である。
14	R6 年度の取りくみ	第3期子ども子育て支援事業計画を策定する年度であるので、アンケート結果やワークショップなど、子どもや保護者の声を伝えながら、子どもの権利についての発信を継続する。

1	タイトル	「子どもの権利の日」ちらし、「子ども会議の委員募集」ちらし、「子どもの権利に関する条例パンフレット」による広報
2	事業名	子どもの権利に関する条例推進事業
3	担当課	教育部 人権国際教育課 健康子ども部 子ども政策課 行政経営部 人権推進課
4	目的	子どもの権利についての広報・啓発を行う
5	事業概要	子どもの権利の日に、全学校園所に配布するほか、子ども会議の委員募集のために、4年生から中学3年生までに配布、その他研修会においての子どもの権利の広報啓発のためにパンフレットを配布し、説明を行う。
6	対象者	市民
7	人数（枚数）	「子どもの権利の日」ちらし 9,000枚 「子ども会議の委員募集」ちらし 4,000枚 「子どもの権利に関する条例パンフレット」追加印刷 600部
8	実施場所	学校園所や研修場所
9	実施日	子ども会議委員募集は、5月 子どもの権利の日は11月、 パンフレットは研修実施の際に使用
10	所要額	「子どもの権利の日」52,000円 「子ども会議委員募集」66,000円 「子どもの権利に関する条例パンフレット」45,000円
11	R5 実施内容	「子どもの権利の日」のちらしは、子ども会議の0Bに記事の原案を依頼し、子ども会議に参加してのコメントも記載した。子ども会議のちらしは、昨年度の子ども会議の様子を取り入れ、写真が多くて親しみやすいものとした。子どもの権利に関する条例パンフレットは、残数がなくなったので追加で印刷を行った。
12	成果	子どもの権利に関する条例の認知度、せんなん子ども会議の認知度は、年々増えている。（子ども子育て計画策定のためのアンケート結果による）たくさんの配布物がある学校園所においては、カラーの印刷物は目立っている。
13	課題	毎年、同じ時期での配布であるので、「見たことがある」「聞いたことがある」というふうにならないよう、内容を工夫する必要がある。
14	R6 年度の取り組み	どのような内容を「子どもの権利の日」のちらしとするかを、事務局会議に諮り、内容を決定していきたい。また、子ども会議の子どもたちにも、意見を聞いて取り入れていきたい。

1	タイトル	「人権作品展」「市民の集い」「子どもの権利の日」における子どもの権利パネルの設置
2	事業名	人権擁護委員協議会補助事業 人権啓発事業 子どもの権利に関する条例推進事業
3	担当課	教育部人権国際教育課 健康子ども部子ども政策課 行政経営部人権推進課
4	目的	子どもの権利についての広報・啓発を行う
5	事業概要	「人権作品展」「市民の集い」「子どもの権利の日」において、子どもの権利を伝えるパネルやポスター、チラシ等を掲示し、子どもの権利や子どもに関する条例等の広報を行う。
6	対象者	市民
7	参加者数	① 1,659名 ②363名
8	実施場所	① 「人権作品展」(イオンホール) ② 「市民の集い」(文化ホール) ③ 「子どもの権利の日」(市役所)
9	実施日	① 11月21日～11月26日 ②12月3日 ③11月13日～11月17日
10	所要額	人権国際教育課 0円 子ども政策課 52,000円 人権推進課 0円
11	R5 実施内容	子ども会議の子どもたちが作成した子どもの権利を考えるポスター、泉南市の10年後を考えた泉南市未来新聞、子ども会議募集チラシ他、子どもの権利条約の条文カード、アイコン等を掲示する。 イオンホールでは、参加型コーナーとして子どもたちが思う「なんでやねん」「すてきやねん」を書くコーナーを設置する。
12	成果	人権作品展には、たくさんの方が参加するので、様々な人権とともに、子どもの権利について広報するに有効な場となっている。他市町の方からも、泉南市のこの取り組みについて、評価するアンケート記載もみられる。
13	課題	毎年、同じものを掲示しているので、毎年参加されている人にとっては、見たことがある情報になっている。
14	R6 年度の取り組み	子ども子育て支援事業計画策定のために実施したアンケート結果など、新しい情報も交えて子どもの権利の啓発を行っていきたい。

第16条 条例の実施に関する検証と公表

第16条では、「市は、この条例が子どもの権利条約に基づいて、本市における子どもの最善の利益の実現に貢献していくことができるよう、条例の運営状況及びこの条例に基づく事業等の実施状況を定期的に検証します。」としています。この検証を実施するため、「子どもの権利条例委員会」並びに「子どもの権利条例市民モニター会議」を設け、「この条例の運営状況を検証するための活動を行い、条例委員会は市長に対して必要な報告等を行います」としています。また、「市長は、市長報告等を広く市民等に公表するとともに、その内容を検討し、これを市の子ども施策に生かすものとします。」とも定めています。

これに基づき、以下のように条例委員会・市民モニター会議を定期的に開催し、条例委員会による市長報告も本年度で13回目となります。

視点

- 市は、条例の運営状況と事業等の実施状況について定期的に検証していますか
- 子どもの権利条例委員会と市民モニター制度が具体的に活動できるよう条件整備を行っていますか
- 条例委員会が市長に提出した報告書について、公表するとともに、施策に生かしていますか

1	タイトル	子どもの権利条例委員会
2	事業名	子どもの権利に関する条例推進事業
3	担当課	健康子ども部子ども政策課
4	目的	「子どもにやさしいまち」の実現に係る条例の運営状況について、総合的かつ重点的な観点から検証を行うこと
5	事業概要	条例に基づく事業等の実施状況について、成果と課題を可能な限り明らかにする観点から検証を行う
6	対象者	有識者及び市民
7	R5 実施内容	昨年度の第10次報告・第11次報告が提起した諸課題を改めて確認するとともに、それらが現在までに、どのように具体化されようとしているかについて、条例に基づく事業等の2022年度実施状況に注目し、検証を行った。
8	参加者数	154人 ※延べ人数
9	実施場所	市民交流センター、市役所本庁第一委員会室
10	実施日	5月9日、5月25日、6月29日、8月18日、9月28日、11月2日、11月21日（市長報告）、3月4日
11	所要額	337,500円
12	成果	第12次泉南市子どもの権利条例委員会報告 （本次報告の課題） 第10次・第11次報告が提起した諸課題に関する経過と現状をめぐって 報告事項Ⅰ 「子どもにやさしいまち」を実現するための条例の運営状況 報告事項Ⅱ 子どもの権利条例に基づく2022年度事業等の実施状況（各実施機関報告一覧） 報告事項Ⅲ 市民モニターから見た子どもの権利条例の運営状況（意見表明）
13	課題	事務局として、報告事項Ⅱを市民にとってわかる報告になるよう改善する。
14	R6 年度の取り組み	事務局として、令和6年度から報告事項Ⅱのリード文、様式を変更し、各事業を記載する際に意識する視点（チェックボックス）を掲載した。

1	タイトル	子どもの権利条例市民モニター会議
2	事業名	人権啓発事業
3	担当課	行政経営部 人権推進課
4	目的	条例第 16 条に基づき、条例委員会と相互に協力及び連携して、条例の運営状況を検証するための活動を行う。
5	事業概要	市長から委嘱された市民モニター（子どもモニターを含む）が、事務局や条例委員からの説明を受け、昨年度の取組についての検証を行う。
6	対象者	市民
7	参加者数	おとな市民モニター 9 名（2 名欠席）子どもの権利条例委員 5 名 事務局 3 名
8	実施場所	泉南市立市民交流センター
9	実施日	8 月 22 日
10	所要額	50,000 円
11	R5 実施内容	「泉南市子どもの権利条例委員会第 1 次報告書」「報告事項Ⅱ（令和 4 年度の取組）」「第三者委員会に対する要望書」「子どもの権利条例委員会からの報告と要請」について条例委員会および事務局より説明を行い、質疑応答、意見交換を行った。後日、レポートの提出を求めた。 令和 5 年度はおとな市民モニターだけで実施した。
12	成果	検証すべき内容は、多岐にわたっているため、事前に資料を配布し、当日は説明と質疑応答が中心で、十分に意見交換することはできなかったが、1 か月後に提出いただいたレポートでは、市としては比較的順調にすすんでいると思っている事業についても、「これまでどおり」ではなく、今一度、条例に立ちかえることが大切であると気づかされた。 市民モニターのレポートは、本人の了解のもと、報告事項Ⅲとして、市長報告として掲載したので市民モニターの意見を直接届けることができた。
13	課題	おとなモニターと同じ資料で議論を行うことが難しいという判断で、本年度はおとなモニターだけで実施したが、おとなモニターからは、子どもたちの意見も聞きたかったという意見が出た。 モニター会議参加後のレポート提出は抵抗のある方もいるので、市民モニターのレポートを報告事項Ⅲとして、市長報告に記載するかどうかは、その年度の委員の意見も参考に決定していきたい。
14	R6 年度の取り組み	広報だけでは、市民モニターの申し込みは少ないので、おとなモニターは、ゆうてみいサポーターに登録して人に案内を送り参加をよびかける。子ども市民モニターは、ここ数年実施することができていないので、どのような内容で、実施することがより効果的であるか、条例委員会の意向も踏まえて検討する。

1	タイトル	子どもの権利に関する施策推進本部
2	事業名	子どもの権利に関する条例推進事業
3	担当課	健康子ども部子ども政策課
4	目的	泉南市子どもの権利に関する条例に基づいた子どもにやさしいまちの形成に関する施策の円滑かつ効果的な推進を図ること
5	事業概要	条例委員会から市長に報告された内容を市の子ども施策等に活かすために、推進本部で検討を行い、市の機関で共有し施策を具体化すること
6	対象者	職員
7	R5 実施内容	第 10 次・11 次・12 次報告書の提言を検討
8	参加者数	36 人 ※延べ人数
9	実施場所	泉南市役所
10	実施日	5 月 1 日、12 月 27 日、2 月 20 日
11	所要額	0 円
12	成果	第 10 次・11 次報告について 5 月 1 日に推進本部を開催し、子どもの相談に関わる公的第三者機関の設置の必要性を再確認した。また、第 12 次報告については、12 月 27 日及び翌年 2 月 20 日に本部会議を開催し、「子ども権利推進本部会議の充実」、「子どもの思い・声を聞く、安全・安心の居場所、相談・救済機関の設置」、「職員研修の充実」を重点施策として取り組むことを決めた。
13	課題	子どもの権利について理解を深め、報告事項に記載された内容を共通理解するために、条例委員会に参加している事務局が報告内容の意図を的確に伝える必要がある。
14	R6 年度の取り組み	担当者間で行っていた事務局会議や相談・救済機関の設置に向けての検討会議をそれぞれ、推進本部会議の組織に位置付けて、推進本部会議で検討し、推進本部会議の充実をはかる。

2024(令和6)年度 泉南市子どもの権利条例委員会名簿

泉南市子どもの権利条例委員会

会長	吉永 省三	規則第3条第2項第1号による委員 千里金蘭大学名誉教授 (国連 NGO)子どもの権利条約総合研究所顧問/研究員
副会長	山下 裕子	同上 (公益社団法人)子ども情報研究センター事務局長
委員	横井 真	同上 (社会福祉法人)京都市右京区社会福祉協議会 事務局長
委員	青木 桃子	規則第3条第2項第2号による委員(市民委員) 元泉南市子どもの権利に関する条例案検討委員会委員
委員	前田 百合子	同上 元泉南市子どもの権利に関する条例案検討委員会委員

任期 (令和4年11月18日より3年)

泉南市子どもの権利委員会事務局

健康子ども部子ども政策課
教育委員会教育部人権国際教育課
行政経営部人権推進課

2024(令和6)年度 泉南市子どもの権利条例委員会会議開催概要

月日(曜)	会議名	開催時間	開催場所
5月7日(火)	第1回条例委員会	13:30-15:30	市民交流センター
6月18日(火)	第2回条例委員会	13:30-15:30	市民交流センター
7月22日(月)	第3回条例委員会	13:30-15:30	市民交流センター
〃	第13次市長報告(第1回)	16:30-17:30	
9月20日(金)	第1回分科会(オンライン協議)	20:00-21:30	
9月24日(火)	第4回条例委員会	13:30-15:00	市民交流センター
9月29日(日)	第2回分科会(オンライン協議)	17:00-19:00	
10月1日(火)	第2回分科会(オンライン協議)	13:00-15:00	
10月4日(金)	第3回分科会	10:00-12:00	市民交流センター
10月15日(火)	第4回分科会	13:00-15:40	子ども情報研究センター
10月18日(金)	第5回条例委員会	13:30-15:30	泉南市役所
〃	第13次市長報告(第2回)		
11月13日(水)	第6回条例委員会	10:00-10:45	市民交流センター
〃	第13次市長報告(第3回)	11:00-12:00	